

平成24年度 第14次チェルタルド市訪問
甘楽町中学生国際交流研修団報告記



ヴァチカン市国サンピエトロ広場



花の都フィレンツェ



チェルタルド市歓迎レセプション～イタリアの家族とともに～



群馬県甘楽町
財団法人 甘楽町国際交流振興協会



目 次



◇ “国際交流は人材育成”	
	甘楽町長 茂原 荘一 …… 1
◇ “交流の継続・発展を願って”	
	(財) 甘楽町国際交流振興協会長 富岡 古男 …… 2
◇ 第14次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団	
	<名 簿> …… 3
	<受入家庭名簿> …… 4
	<研修団の概要> …… 6
	<研修団報告記> …… 18
◇ チェルタルド市の概要	…… 43
◇ 国際交流年表	…… 44



国際交流は人材育成

第14次チェルタルド市訪問中学生研修団の皆さん、研修お疲れ様でした。11日間という研修期間でしたが、帰国報告会での皆さんの報告を聞いて、皆さんにとって大変意義深い、生涯忘れることのない思い出になったのではないかと感じました。

チェルタルド市との交流は昭和58年から始まりましたので、すでに29年が経過しようとしています。その間、お互いに使節団・研修団の派遣事業を実施して、今回が第14次の甘楽町中学生研修団の派遣となりました。

交流が始まった当初はイタリアへ行くにはかなりの時間がかかりましたが、今では日本からの直行便があり半分程度の時間で行くことができるようになりました。また、当時はなかなか海外に行く機会もありませんでしたが、今では海外旅行はとても身近になり、経済など多くの分野でグローバル化が進んで、英語を社内公用語とする日本企業も出てきています。

今年度から始まった甘楽町第5次総合計画「KANRA プラン・輝き」の中に、「国際感覚豊かな人材育成を推進する」という施策が盛り込まれています。私は、チェルタルド市への中学生の派遣は、国際交流事業の中でも国際感覚豊かな人材を育成するための最も重要な事業の一つであると考えています。一般的な観光ツアーでは経験できないホームステイを通してホストファミリーの人々とふれあうことができるとともに、異文化を肌で感じるができるからです。研修団員として派遣された中学生が、今回のイタリアでの経験を糧に今後の中学校生活で何事にも積極的に取り組み、成長して社会人となったときにグローバルな視野を持って社会に貢献できることを期待しています。

この報告記には、イタリアでの中学生の様々な経験、感想、楽しかったことや驚いたことが記載されています。感受性豊かな中学生の外国での貴重な体験を、是非ご一読いただきたいと思います。

最後に、研修団員を快く受け入れていただいたホストファミリーの皆様、チェルタルド市の皆様、そしてご苦勞いただきました野口英明団長をはじめ研修団の派遣にあたり多くのご協力をいただきましたすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

2012年12月

甘楽町長 茂原 荘一



交流の継続・発展を願って

1986年、初めての中学生交流団がチェルタルド市を訪問してから今回で14回目となる「チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団」派遣事業が、多くの関係者のご支援とご協力により、無事実施できたことは大きな喜びとするところであります。

今研修団は、野口英明団長をはじめ、随行員、通訳の皆様により、甘楽町とチェルタルド市の友好交流のため多大なるご尽力を賜り大きな成果を上げることができました事に改めて厚くお礼申し上げます。

研修団員の皆さんは、チェルタルド市のホームステイでは異国の生活習慣を体験しつつ友情を育み、ローマやフィレンツェ、ミラノでは様々な文化遺産や史跡見学で歴史や文化に触れられたことにより、大きな感動を受けたことと思います。そして、それは今後の人生にとって大きな財産となることに違いありません。

団員の保護者の皆様におかれましては、訪問研修期間中は大変ご心配なされたことと思いますが、随行員や待機職員の努力により甘楽町ホームページから逐次、研修団の様子を見ることができ、安心できたのではないかと考えています。

また、帰国報告会での報告により、研修団は、チェルタルド市との一層の友好親善と研修団員同士の交流もさらに深められた様子をうかがい知ることができ、保護者の皆様も団員の成長ぶりを実感されたことと思います。

この中学生研修団の相互派遣は、今後も続く両市町の友好交流の発展と、国際社会に対応できる青少年たちの健全育成に大きく寄与することを確信するものであり、これらの交流の継続・発展を心から願っているところであります。

改めまして、今研修団を派遣するにあたりご協力をいただきました、多くの関係者の皆様に対しまして、厚くお礼申し上げます。

2012年12月

財団法人 甘楽町国際交流振興協会
会長 富岡古男

《第14次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団名簿》

No.	所属	氏名	性別	住所	備考
1	団長	野口英明	男	甘楽町大字白倉	教育委員長
2	随員	田村昌徳	男	甘楽町大字善慶寺	教育課補佐兼 文化財保護係長
3	随員	大河原敦子	女	甘楽町大字小幡	企画課 企画調整係長
4	通訳	一ノ瀬俊和	男	東京都稲城市矢野口	国立音楽大学教授

No.	所属	氏名	性別	住所	保護者
1	一中2-1	小柏結	女	大字天引	修
2	一中2-1	勅使河原有希	女	大字小川	聡
3	一中2-1	堀口琴乃	女	大字小川	勉
4	一中2-1	堀口桃香	女	大字小川	和之
5	一中2-2	池田ひな乃	女	大字小川	多春
6	一中2-2	黒澤勇星	男	大字造石	繁雄
7	一中3-1	金井理沙	女	大字福島	辰夫
8	一中3-1	根岸敬介	男	大字福島	勝巳
9	一中3-2	宮代典明	男	大字白倉	佳枝
10	二中1-A	村田真子	女	大字小幡	幸一
11	二中1-B	富岡皇貴	男	大字善慶寺	裕貴
12	二中2-A	加藤大虎	男	大字秋畑	友紀
13	二中2-A	堀口晴輝	男	大字上野	朝也
14	二中2-A	松田祐斗	男	大字善慶寺	高司
15	二中2-A	丸澤幹仁	男	大字善慶寺	哲
16	二中3-B	田中里奈	女	大字小幡	睦宏

《第14次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団受入家庭名簿》

No.	所属	氏名	世帯主(名・姓)	妻(名・姓)	子供(名)	性別	年齢
1	1中 2-1	小 柏 結	ファブリッツィオ・ムニャイーニ	タマーラ・プッチョーニ	GIULIO (ジュリオ)	男	16
2	1中 2-1	堀 口 桃 香	FABRIZIO MUGNAINI(美容師)	TAMARA PUCCIONI(教師)	GLORIA(グロリア)	女	12
3	1中 2-1	勅使河原 有希	ルチアーノ・ジョヴァンネッティ	ルイーザ・マッキヤーリ	GIAN GIACOMO(ジアン ジャコモ)	男	25
4	1中 2-2	池田ひな乃	LUCIANO GIOVANNETTI(建築家)	LUISA MACCARI(教師)	ANNALISA(アンナリーザ)	女	14
5	1中 2-1	堀 口 琴 乃	イタロ・ペコレッティ	サブリナ・レッリ	AMELIA(アメリア)	女	10
6	1中 3-1	金 井 理 沙	ITALO PECORETTI(芸術家)	SABRINA LELLI(会社員)			
7	2中 1-A	村 田 真 子	ダンテ・ネズィ	ブルネッラ・オルシ	FIAMMETTA(フィアンメッタ)	女	19
8	2中 3-B	田 中 里 奈	DANTE NESI(医師)	BRUNELLA ORSI(主婦)	REBECCA(レベッカ)	女	15
9	1中 2-2	黒 澤 勇 星	ファビオ・ヴェッキャレッリ	スザンナ・プロヴェディ	GABRIELE(ガブリエーレ)	男	14
10	2中 1-B	富 岡 皇 貴	FABIO VECCHIARELLI(消防士)	SUSANNA PROVVEDI(商人)			
11	1中 3-1	根 岸 敬 介	エリアーノ・アルジッリ	マリア・モッレアーレ	DARIO(ダリオ)	男	9
12	1中 3-2	宮 代 典 明	ELIANO ARZILLI(オイル会社社長)	MARIA MORREALE(教師)			
13	2中 2-A	加 藤 大 虎	ヴァレリオ・ベッシ	ロッサーナ・ロッシ	ANDREA(アンドレア)	男	14
14	2中 2-A	堀 口 晴 輝	VALERIO BESSI(会社員)	ROSSANA ROSSI(デザイナー)			
15	2中 2-A	松 田 祐 斗	アントニオ・カロッシ	ラウラ・ボッカルド	ALESSANDRO(アレッサンドロ)	男	15
16	2中 2-A	丸 澤 幹 仁	ANTONIO CALOSSI(眼科医)	LAURA BOCCARDO(眼鏡屋)	FRANCESCO(フランチェスコ)	男	14

H24 7次甘楽町訪問チェ市研修団員

ホストファミリーの皆さんとの思い出の写真



ファブリッツィオ・ムニャイーニさん 宅
〈小柏 結 ・ 堀口 桃香〉



ルチアーノ・ジョヴァンネッティさん 宅
〈勅使河原 有希 ・ 池田 ひな乃〉



イタロ・ペコレッティさん 宅
〈堀口 琴乃 ・ 金井 理沙〉



ダンテ・ネズィさん 宅
〈村田 真子 ・ 田中 里奈〉



ファビオ・ヴェッキャレツリさん 宅
〈黒澤 勇星 ・ 富岡 皇貴〉



エリアーノ・アルジツリさん 宅
〈根岸 敬介 ・ 宮代 典明〉



ヴァレリオ・ベッシさん 宅
〈加藤 大虎 ・ 堀口 晴輝〉



アントニオ・カロッシさん 宅
〈松田 祐斗 ・ 丸澤 幹仁〉

第14次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団の概要

- 4月11日(水) 研修団員募集開始
～5月9日(水) (応募生徒数24名)
- 5月7日(月) 各中学校より研修団員の推薦
- 5月15日(火) 研修団員選考委員会開催
- 5月25日(金) 団員選考抽選会(16名決定)
- 5月28日(月) 団員決定通知交付
- 6月5日(火) 第1回打合せ会議開催(甘楽町文化会館)
- 7月10日(火) 第2回打合せ会議開催(甘楽町文化会館)
- 7月25日(水) 団員事前研修会(甘楽町公民館)
～7月27日(金) 講師:一ノ瀬俊和氏
- 7月31日(火) 第7次青年使節団との交流会(ら・ら・かんら)
- 8月7日(火) 第3回打合せ会議開催(甘楽町公民館・壮行会終了後)

【第14次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団行程】

- 8月15日(水) 晴
 - 7:00 甘楽町役場出発
 - 10:15 成田国際空港着
 - 13:15 成田国際空港発(AZ785便)
 - 18:43 ローマ フィウミチーノ空港着(ここからイタリア時間 日本との時差 -7時間)



それでは、行ってきまーす(成田国際空港)



無事に到着です(ローマ フィウミチーノ空港)

- 20:20 ローマ市内のレストラン(RISTORANTE LA BAIÀ)にて夕食



レストランに着きました



イタリアでの最初の食事はパスタでした

- 21:45 ホテル着

○ 8月16日(木) 晴

8:00 ホテルにて朝食



ホテルの朝食はバイキング



ホテルのロビーで甘楽町ホームページをチェック中

9:00 ホテル発(ローマ市内見学)



古代ローマの遺跡コロッセオへ



ローマの水を飲みました



サンタ・マリア・イン・コスメディン教会: 真実の口

12:30 レストラン(LE DEL TERME COLOSSEO)にて昼食

13:30 サンカリストロのカタコンベ(共同墓地)見学

15:45 カタコンベから再びローマ市内へ



トレヴィの泉



スペイン階段

- 19:00 レストラン(RISTORANTE MANGROVIA)にて夕食
 ※ヴァチカン市国日本大使館勤務エツレ・コローさんが同席
 20:30 ホテル着

○ 8月17日(金) 晴

8:30 ホテル発(ヴァチカン市国見学)



美の迷宮 ヴァチカン美術館



サンピエトロ大聖堂



ヴァチカン市国警備兵



サンピエトロ広場

- 12:00 ローマ市内のレストラン(ALLE DUE FONTANELLE)にて昼食
 13:40 チェルタルド市に向けてローマを出発(車窓を楽しみながら、約3時間半のドライブ)
 17:30 チェルタルド市に到着
 マツチェリ広場にある青少年センターにて対面式後、団員たちは各受入家庭へ
 <歓迎レセプション出席者(チェルタルド市)>
 デニーゼ・パニョーリ評議員、シモネッタ・マリアーニ(市役所交流担当職員)
 シルビア・ムニャーニ夫妻(第7次使節団随行人員)、マッシモ(運転手)、ホストファミリー



たくさんの人が出迎えてくれました



デニーゼ・パニョーリ評議員からようこそその挨拶



少し緊張気味の団員たち



野口団長からよろしくの挨拶



全員での記念写真



7日間のホームステイが始まりました

18:50 団長・随行人・通訳(以降「団長以下4名」)、ホテル(イル・ラティーニ)着

20:30 団長以下4名は、滞在ホテル(イル・ラティーニ)にて夕食

○ 8月18日(土) 晴

10:00 市庁舎にて公式歓迎式

<公式歓迎式出席者>

デニーゼ・バニョーリ評議員、ジャコモ・クチーニ評議員、ジュゼッペ・ロンバルト議員

シモネッタ・マリアーニ(市役所交流担当職員)、マッシモ(運転手)、ジュリアーノ(運転手)

ホストファミリー



歓迎式の団員たち



交流担当のジャコモ評議員から歓迎の挨拶

<ジャコモ・クチーニ評議員の挨拶> この交流が長く続いてきたことをいつも嬉しく思っている。日本とイタリアは遠く離れているが、両国とも優れた文化を持っており、この交流はその違いを理解し合う機会になる。先日、日本に行ったチェルタルドの子もたちは、色々なところで大歓迎され、とても感謝している。これからホストファミリーが、みなさんにも色々なところを見せてくれると思うので、ぜひリラックスして楽しんで良い思い出をつくってほしい。



ホストファミリー代表ファビオさんが素敵な計画発表



交流について会談中

11:45 終了後、団員たちは各受入家庭へ

団長以下4名は、市庁舎内を見学し、市役所周辺のメインストリートを散策
その後、小学校、幼稚園、プール、チェルタルド駅などを見学



チェルタルド市役所(ポッカチオ広場)



チェルタルド駅前通り

13:00 受入家庭訪問

団長以下4名は、ダンテ・ネズィさん宅にて昼食



真子と里奈:お姫様のように暮らす二人
(ダンテ・ネズィさん宅)



Cin cin!

18:30 COOPチェルタルドへ(地元のスーパーマーケットでの買い物)

20:30 団長以下4名は、リド・オルシさん宅(Pizzeria Fiano)にて夕食

0:30 ホテル着

○ 8月19日(日) 晴

8:45 団員たちは、ホストファミリー主催のバスツアーで、ピサの斜塔と海へ出発

10:00 団長以下4名は、チェルタルド・アルト、プレトリオ宮殿、ポッカチオの家などを見学
途中、ホテルチェルタルド及びイル・カステッロに立ち寄り、柳沢正人さんの額を贈呈



上の町



プレトリオ宮殿



プレトリオ宮殿の中



ケーブルカーからの眺め

- 13:00 団長以下4名は、ポッジャ・グリツリ社のルチイ・ロランドさん宅にて昼食
※第7次使節団フランチェスコ団長が同席
- 17:00 団長以下4名は、サンジミニャーノを見学
- 20:15 上の町にあるレストラン(Ancika Fonte)にて夕食
- 22:00 夜のチェルタルド・アルトを散策
- 23:00 ホテル着

○ 8月20日(月) 晴

9:30 受入家庭訪問

※団員たちは、終日ホストファミリーと過ごす



祐斗と幹仁: 今日はこちらからシエナに行って夕食を食べます!
(アントニオ・カロッシさん宅)



勇星と皇貴: ガブリエーレのサッカーチームの練習に行ってきます
(ファビオ・ヴェッキャレリさん宅)

12:15 団長以下4名は、エリアーノ・アルジツリさん宅にて昼食



敬介と典明:小さなタリオは本当の弟みたいです
(エリアーノ・アルジッリさん宅)



エリアーノさん宅での昼食会

16:45 家庭訪問再開



有希とひな乃:みんなで庭でバーベキューをしました
(ルチアーノ・ジョヴァンネッティさん宅)



大虎と晴輝:マンマの作るショートパスタ最高!
(ヴァレリオ・ベッシさん宅)



結と桃香:今晩は家族と一緒に餅ピザを作ります
(ファブリツィオ・ムニャイーニさん宅)



琴乃と理沙:アメリカや犬や猫とも仲良しになりました
(イタロ・ペコレッティさん宅)

20:00 団長以下4名は、イタロ・ペコレッティさん宅にて夕食 ※サプライズゲストでロザルバ・スピーニ前市長ご夫妻が同席



イタロ・ペコレッティさん宅での夕食会



イタロの人形劇に拍手喝采

0:15 ホテル着

○ 8月21日(火) 晴

8:15 団長以下4名、ホテル発(フィレンツェ見学)

団員たちは、8時にホストファミリーとチェルタルド駅に集合し、8時15分発の電車でフィレンツェへ

10:00 ウフィッツィ美術館の前で団員たちと合流

ウフィッツィ美術館、フィレンツェ市内見学後、団員たちとは別行動に



フィレンツェに着きました



ウフィッツィ美術館のテラスにて



ポンテ・ヴェッキオ(美術館からの眺め)



ドゥオモ(サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂)

13:00 団長以下4名は、レストラン(I' brindellone)にて昼食

団員たちは、ポーポリ庭園にてマンマ手作り弁当のランチタイム

16:00 ホテル着

20:00 団長以下4名は、シモネッタ・マリアーニさん宅にて夕食

23:15 ホテル着

○ 8月22日(水) 晴

8:45 団長以下4名、ホテル発

9時に国旗のモニュメントのあるロータリーに集合し、団員たちと一緒に、レオナルド・ダ・ヴィンチの生家と博物館を見学

(ヴィンチ村ツアーは、バス会社を運営しているマルコ・ピーニ氏が、バスと運転を無償提供)



マルコ・ビーニさんが用意してくれたバス



ウインチ村へ着きました



レオナルド・ダ・ヴィンチの生家の前で



塔の上からの風景

13:15 チェルタルド市着

団員たちは、各受入家庭へ

団長以下4名は、上の町にあるレストラン(Locanda Linando II)にて昼食

16:30 ホテル着

18:00 団長以下4名は、市内額縁工場を見学

20:00 お別れ夕食会(ピッツェリア Maroni にて)

※チェルタルド市関係者、ホストファミリーの皆さんと一緒に



左から、カンピノーティ市長、ジャコモ評議員、デニーゼ議長、フランチェスコ評議員



本場のピザに舌鼓

<アンドレア カンピノーティ市長の挨拶>

互いに長い歴史を持っている国同士が、その歴史や伝統を尊重し合いながら、交流を続けている我々の姉妹都市関係は、素晴らしいことです。この二つの小さな町が長く友好関係を続けてこられたのは、人と人の繋がりが大きいからだと言えます。この機会にみなさんをお願いします。みなさんが感じたこと、見たことを周りの人に伝えてください。文化は違うけれど、こんな風にうまくやっていると伝えてください。将来を担っていく子どもたちには、国際人として友人を沢山つくって広い大きな考えで未来へと歩いていくことを望みます。



晴輝と祐斗で突撃インタビュー敢行



大盛り上がり子どもたち



団長からのお礼の挨拶



よさこいソーラン節を披露



深夜のパフォーマンス合戦



ホストファミリーのお父さんたち

0:40 笑顔と涙のお別れ夕食会終了

○ 8月23日(木) 晴

7:00 ホテル発

7:15 国旗のモニュメントのある広場に集合



必ずまた会おうね



楽しい日々をありがとう



元気でいてね



Ci vediamo!

- 7:30 チェルタルド市を出発(ミラノへ)
- 12:10 ミラノ着、市内のレストラン(CORALLO)にて昼食
- 13:45 ミラノ市内見学(混催ツアー参加)



世界最高峰のオペラ劇場スカラ座



ガッレリア(プラダ本店前)



大聖堂ドゥオモの前で



サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会で「最後の晩餐」を鑑賞

- 18:30 レストラン(MARCELLINO)にて夕食
- 19:45 ホテル着



ミラノ最後の晩餐はミラノ風カツレツ



帰国の準備、明日の出発時間など事務連絡中(ホテルのロビーにて)

○ 8月24日(金) 晴

9:00 ホテル発

サン・シーロ競馬場、サッカー場を見学



サン・シーロ競馬場のダ・ヴィンチの馬の像



サッカー競技場公式グッズにテンションMAX

12:00 ミラノ マルペンサ空港着



これから出国手続きです



Anivederci ITALIA(空港のバスの中)

14:35 ミラノ マルペンサ空港発(AZ786便)

○ 8月25日(土) 晴

9:25 成田国際空港着(ここから日本時間)

15:00 甘楽町役場到着

団長より無事帰国の報告

町長、国際交流振興協会会長より、労いの言葉をいただき解散



ただいま帰りました



野口団長が帰国の報告



歴史あふれる国 イタリア

団 長
野 口 英 明

第14次チェルタルド市訪問中学生国際交流研修団の団長として参加させていただきました。団長を引き受けてまず思ったことは全員無事に行って来られるか不安なことでした。

しかし、事前打合せで今回の研修生は、男女とも8名ずつ、また、学年別では1年生が2名、2年生が10名、3年生が4名であり、学校別では一中生が9名、二中生が7名ということでバランスがよいので安心しました。また、3日間の事前研修で一ノ瀬先生からイタリアの歴史や文化、生活習慣や日常会話などを教えていただき、期待感が高まりました。

そして、チェルタルド市から7月29日に第7次青年使節団が来町し、5泊のホームステイをする中で交流会が開かれました。5班に分かれて一緒にカレーやブルスケッタを作り共に食事をしたり、トランプをして遊んだりして子どもたちは親しくなっていました。そのため、イタリアへ出発したときも、親しい友達に会いに行くような感覚でした。日本との時差が7時間のため、飛行機で12時間半程かかりましたが、出発日と同じ8月15日夕方、ローマに到着しました。皆、長旅で疲れた様子でしたが、ホテルでゆっくり休めたことは良かったです。

翌日にローマ市内を見学しました。コロッセオやフォロロマーノなどの古代ローマ帝国時代の遺跡を見て、その壮大に驚きました。午後、当初の予定にはなかったカタコンベ（地下の墓）を見られたのも良かったです。

そして、8月17日に姉妹都市のチェルタルド市に到着しました。マツチェリ広場の青少年センターで歓迎レセプションが行われた後中学生は迎えに来たホストファミリーの家にそれぞれ向かい、一週間のホームステ

イが始まりました。お世話になる8家族のうち、5家族の子どもが今回の青年使節団として甘楽町に来ているので、ホストファミリー同士のまとまりがよく、滞在中にフィレンツェの他予定になかったピサの斜塔見学にも全員を連れて行ってくださいました。また、おそろいの帽子まで準備していただきました。滞在3日目に随行員がホームステイ先を家庭訪問しましたが、どの家でも子どもたちを自分の子どもと同じようにまたはそれ以上にかわいがってくれていて、本当に楽しそうでした。個々の家ではそれぞれの過ごし方を楽しんでいました。

随行員の私たちは、市内のラティーニというホテルに宿泊していましたが、市職員で交流担当のシモネッタさん、運転手のマッシモさんとジュリアーノさんの案内で、上の町やサンジミニャーノなどを案内していただきました。食事も多くは個人宅でごちそうになりました。イタリアの家庭では昼食や夕食に2時間以上かけて食べるのにはびっくりしました。



▲夜のチェルタルド・アルト（上の町）

一週間のチェ市での滞在の最後の晩にお別れ夕食会を催していただきました。市側からカンピノーティ市長やフランチェスコ団長なども出席し、ピザ専門店でも盛大に行われました。日本と違い、夕食を済ませてから、お互いの挨拶をした後、研修生代表として金井理沙さんがホストファミリーへのお礼の言葉を述べ、全員で歌と踊りを披露しました。夕食会は大変な盛り上がりを見せ、0時すぎにようやく終了しました。翌朝7時に私たちはホストファミリーと別れ、バスでミラノへ

出発しました。ミラノでは、レオナルド・ダ・ヴィンチの最後の晩餐の実物を見られ感動しつつ、8月25日に全員無事に帰国しました。



▲ミケランジェロ広場（フィレンツェ）

今回、団長としてお世話になり、心配していたトラブルや病気などもなく帰れたのは、研修生が代表としての自覚をもち行動してくれたこと、そしてまた、随行員や通訳のノ瀬先生がきめ細かく中学生の指導をいただいたおかげです。それから町当局や国際交流振興協会のご支援のおかげです。関係者に心より感謝申し上げます。



I♡CERTALDO

1中 2年1組
小 柏 結

「やった～、当たった。」

私は、くじを引き、運良くイタリア研修に行くことができました。もちろん、心良く私を送り出してくれた父と母のおかげでもあります。

イタリアに行く前に、私の家ではホストファミリーとしてチェルタルド市の研修団員である男の子3人を受け入れました。初めてのことで不安はありましたが、すぐに仲良くなり楽しい5日間を過ごすことができました。お別れをする時に、家族も私も「もう少

し長く一緒にいたいな。」という気持ちでいっぱいでした。だけど、私だけはまたイタリアで会えるから笑顔で、「イタリアで会おうね。」と言って、ハイタッチをしてお別れをしました。このような体験をしたあとのイタリア研修だったので、行く前から楽しみでたまらなくて、「早くイタリアの子たちに会いたい。」という気持ちで不安など一つもありませんでした。イタリアの食や文化を求めて、そしてイタリアの友達に会うために「いざ、出発！」



▲ローマに着きました（フィウミチーノ空港前）

イタリアでは、日本にはない雄大さを感じました。初めて見た異国の地、今までテレビや写真でしか見たことがなかった建造物を目の前にして、細かい作りや彫刻、そしてなによりも大きさにはおどろきました。ずっと行って見たいと思っていたトレヴィの泉では人々がコインを投げ入れていました。私も、願いを込めて後ろ向きに座り、透き通ったきれいな泉の中にコインを投げ入れてきました。その願いが叶うことを信じながら観光を楽しみました。食に関しては、本場のイタリア料理を味わうことができました。私はイタリア料理が大好きなので日本でもよくピザやパスタを食べますが、日本以上においしかったので思う存分食べてきました。

そして、今回のイタリア研修の中で最も私が一番楽しみにしていたことはチェルタルド市で友達に会うことです。チェルタルド市で友達に会えた時の感動は今でも忘れられません。私だと気づいてくれて手をふりながら、「ゆいだ。」と喋ってそばに寄ってきてくれたのでうれしかったです。その友達とは日

本で会った時よりもたくさん話げできました。イタリア語、英語、ジェスチャーを交えながら楽しく会話ができるので言葉の違いなど関係ないなと改めて感じました。この友達とは一生友達でいたいのでこれからも交流を続けていこうと思います。

それから、初めてのホームステイでは、少し緊張もありましたがとても優しい家族だったのですぐに打ちとけることができ毎日楽しかったです。そして私が特にびっくりしたことは、イタリアの人達は皆、夜遅くまで起きていることです。ホストファミリーと外出した時、いつも帰りが夜中の2時か3時で私は最初の2日間は外出中にねむくて、ねむくて歩きながらとうとうするほどでした。イタリアの人達はほぼ毎日夜遅くまで遊んでいるようです。チェルタルドでの最後の夜は全員集まって食事会をしました。パフォーマンスタイムでお互いに出し物を見せ合った後、自然とみんなが手をつなぎ一つの輪になった瞬間友好を感じることができました。その時、私の心の中では「日本に帰りたくないな。もっと一緒にいたいな。」という気持ちでいっぱいになりました。充実した夜を送れたので私にとってこのイタリア研修は忘れられない最高の思い出です。



▲スフォルツェスコ城（ミラノ）

最後に、このイタリア研修を終えて感じたことは文化の違いや言葉の違いがあっても心さえ通じ合えば世界は一つになれるということです。この貴重な体験を生かして、将来の夢に向かって頑張っていきたいです。「また、会おうね。イタリアの我が友よ。」



イタリアでの思い出

1中 2年1組
勅使河原 有希

私が、イタリアで一番印象に残っている所は、チェルタルドでのホームステイです。イタリアと言ったらローマやミラノ、フィレンツェ、ピサなどと、有名な所がありますが、チェルタルドのことを知っている人は、あまり多くないと思います。私も、今回の研修で知り、初めて行きました。行ってみると、チェルタルドは良い町でした。ローマなどの大都会とは違い、田舎のような感じの所だったので、過ごしやすかったです。そこでのホームステイは自分の家にいるかのように寛げました。



▲ヴィンチ村では塔の上に登りました

ホームステイ先の家族は、私達を優しく親切に受け入れてくれました。そして、シエナやピサ、フィレンツェ、ママの実家、スーパーマーケット、プールなどに連れて行ってくれました。スーパーは、日本と違って売っているもの一つ一つが大きくて、ビックリしました。ピサの斜塔など、誰もが知っている有名な所にも行けてよかったです。イタリアの景色は、とてもきれいで美しかったです。

パパは、色々な所でシャッターチャンス of 場所を教えてくれたり、ジェスチャーを交えながら、簡単なイタリア語を教えてくれたり、笑わせてくれたりしました。ママは、とても

優しい人でした。料理は、スパゲティだけでなく、色々な種類のパスタの家庭料理が出てきました。初めて食べたものもありましたが、とてもおいしかったです。

アンナリーザは英語が話せるので、英語で会話をしました。家では、ジェンカやトランプやビンゴをしたり、パソコンで、イタリアで有名なアーティストの曲を流してくれました。一緒にバレエもしました。楽しかったです。



▲ポンテ・ヴェッキオへ向かう途中（フィレンツェ）

お別れ夕食会では、イタリア人も日本人もみんな仲良く、盛り上がりました。言葉が通じなくても心が通えば、こんなにも仲良くなれるということを改めて実感しました。本当に、イタリア人と生活する毎日が楽しかったです。なので次の日のお別れはとてもさみしかったです。もっと英語を勉強してまた、チェルタルドのみんなに会いに行きたいです。

チェルタルドのみんなと別れた後は、ミラノへ行きました。ミラノの観光中は、最後ということで思い切り楽しみました。研修団員が男女関係なく前よりも仲良くなれた気がします。ホテルでは、友達の部屋に行ったりして楽しかったです。

本当に充実した11日間が送れました。研修団員として研修団のみんなと行けたことに感謝したいです。ありがとうございました。



イタリアに行って

1中 2年1組
堀 口 琴 乃

私がイタリアに行って一番の思い出は、三つあります。まず一つ目はイタリアの色々な美術館に行って有名な絵を見に行ったことです。特に「ヴィーナスの誕生」は聞いた事があったので生で見れてとても感動しました。

後、ガイドの方に「最後の審判」を詳しく説明して下さい、とっても勉強になりました。そして私が一番感激したのは、「最後の晩餐」です。この絵は壁画で近くで見ると、とっても迫力がありました。また、教科書にも「最後の晩餐」を詳しく書いた、「君は最後の晩餐を知っているか。」という題名のワークを読んでもと色々書いてあって面白かったです。他にも前に書いた二つの絵もワークののってあって本当に有名なんだなあ～と思いました。



▲広い庭で犬と追いかっこ（チェルタルド）

二つ目は、イタリアの料理を食べたことです。イタリア観光の後、レストランに行くと色々な種類のピザやパスタが出てきて、本当においしかったです。後、イタリアのジェラートもとってもおいしかったです。でも、ピザの量が意外に多くて、食べるのが少し大変でした。だけどイタリアに行く前に言ってくれた、「イタリアの子供に何の料理が一番好

き？と聞いたらほとんどがお母さんが作ってくれたパスタ。」と答えたように、ホストファミリーの方が作ってくれたパスタはとてもおいしくて最初はどんな料理が出てくるか心配でした。でも食べてみるととてもおいしかったのでよかったです。



▲お別れ夕食会～ダンテさんと一緒に（チェルタルド）

三つ目は、イタリアの方々企画してもらったバスツアーです。今回は特別にしてくれたということでとってもうれしかったです。

特に「ピサの斜塔」は思ったより斜めでびっくりしました。後、午後に行った海は本当久しぶりに行ったのですごくワクワクしてまた行っていいかなあ～と思いました。

本当に長そうだなあ～と思っていた時間があっという間に過ぎてしまいました。

私は、この研修を通してちがう国の文化にふれて、自分が大きくなれたような気がします。この研修で学んだことを忘れずに、毎日生活していきたいです。



思い出に残る イタリア研修

1中 2年1組
堀口 桃香

私は、イタリアに行く前から、言葉が通じるかがとても心配でした。でも、初めての出国に好奇心も抱いていました。そして、何よりもイタリアでのホームステイが一番楽し

みでした。

イタリアに行ってみると、自分の中にあった不安は一切消えました。それから、思っていた以上の感動と喜びがありました。それでも飛行機での13時間は厳しかったです。その後、ローマのフィウミチーノ空港からホテルへ移動し、疲れていたせいか、すぐ眠りについてしまいました。

2日目はローマ市内観光。トレビの泉やコロッセオ、フォロロマーノへ行きましたが、中でも凄かったのがあの有名な「ローマの休日」の舞台になったスペイン広場と真実の口。スペイン広場はどこも人ばかりでしたがとてもきれいでした。真実の口では、手をはさまれないか、少しドキドキするところもあったけれど、けが一つ負わなかったのでほっと一安心。



▲スマホで甘楽町ホームページを確認中（チェルタルド）

3日目は、午前中はサンピエトロ寺院とシステリーナ礼拝堂を観光しました。イタリアの寺院や礼拝堂はとても清潔で広くて、日本の寺とは大違いでした。

午後はローマを出発し、いよいよ待ちに待ったチェルタルド市でのホームステイ。ホストファミリーに出会った時、家族の皆さんが笑顔で出迎えてくれ、家に着くとそこには「歓迎」の文字が。それから、ホームステイ生活がスタートしました。

早速、夕食を食べましたが、お母さんの手料理はどれも美味しく、思わず沢山食べ過ぎてしまいました。夕食後、9時頃にアイスクリームを食べに行くから準備していて、と家族に言われました。そういうことが度々あつ

て、最初は驚きましたが、何度か連れて行ってもらううちに、楽しく感じてきていました。プールなどにも行き、毎日がとても幸せに思えて、この家族とずっと一緒に居られればなと時々思うこともありました。それから、ホストファミリーと一緒にチーズ餅も作り、みんな「美味しい!」と言っておかわりまでしてくれました。ホームステイは7日間でしたが、それがとても短く感じました。



▲siamo amici! (ピサ)

ホストファミリーの方々と別れた後、ミラノへ行きました。ミラノでは、チェルタルド市とは少し違い、「都会」という感じがしました。サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会では、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」を見ました。美術の教科書で見る絵とはまた違って大きく迫力のある絵に見えました。その後、ホテルへ行き、イタリア滞在9日目終了。

そして、イタリアでの最終日。長く感じていた11日もあっという間に終わってしまいましたが、沢山のことが思い出に残りました。素晴らしい体験と感動を与えてくれた団長さんをはじめとする随行員の方々、この研修に携わった方々に心より感謝します。本当にありがとうございました。



イタリアへ行って

1中 2年2組
池田 ひな乃

私は、イタリアに行く前とても楽しみに早く行きたいと毎日思っていました。でも、よく考えると話す言葉も食事も生活もすべて日本とちがうことに気付き、大丈夫なのかと不安になりました。私は、外国に行くのはもちろん飛行機に乗ることも初めてでした。

13時間飛行機に乗りイタリアに着きました。飛行機に乗っただけで、とてもつかれてしまいました。

初日(17日)は、コロッセオ、真実の口とトレビの泉に行きました。どれも印象に残りましたが、その中でも真実の口が一番印象に残りました。真実の口は、テレビや写真で見ると迫力があってとてもおどろきました。また、さわったときはあまりさわ



▲トレビの泉(ローマ)

っているという実感がなく(自分がこれをさわっているのが信じられなくて)、感触はあまり覚えていません。

2日目
(18日)

は、世界最小のヴァチカン市国に行って、そのあとホストファミリーの家に行きました。最初はどうか不安だったけどファミリーのみなさんは優しくて明るい家族でした。

そして滞在中は私たちをいろいろな場所へ連れて行ってくれました。不安だった会話も慣れない英語でなんとかでき、食事も毎日

おいしいものを作ってもらえてとても、快く過ごすことができました。

滞在中、私はペアの子と、ファミリーの子どもと日本食（やきそば）を作りました。イタリアにはない味なのでファミリーの人が食べてくれるか心配でしたが「ブオーノ」と言っておかわりもしてくれたのでうれしかったです。

最終日はプールに行きました。プールではたくさんの人（イタリア人&日本）たちと遊べて本当に楽しかったです。



▲これからお別れ夕食会です（チェルタルド）

その後の夕食会では「ソーラン節」をおどり、「上を向いて歩こう」を歌いました。大きな拍手をもらえたときは、今までがんばってきてよかった、と思えました。

次の朝、チェルタルド市を出発してミラノへ行きました。ミラノでは「最後の晚餐」などたくさんの有名な絵を見ました。その絵はとても大きくて言葉にならないほどきれいでした。美術の教科書にもものっていて、知ってる絵だったので見たときに「あの絵か」と思いました。

翌朝、空港に向かいました。飛行機に乗ってすぐ、3時間ほどねてしまいました。きっと、つかれてたんだと思います。12時間で日本に着きました。無事着いてよかったです。

私は今回、イタリアに行って色々なことを学びました。建物のすばらしさ、文化のちがいが、そして何より人々の温かさです。

今回学んだ事を日々の生活に活かしていきたいです。



G r a z i e
イタリア

1中 2年2組
黒澤 勇星

待ちに待ったイタリア研修とチェルタルドのホームステイ滞在。僕は、不安と期待でいっぱいでした。しかし、それは不安より期待の方が大きいものでした。なぜかという、今夏僕の家ホームステイしたガブリエレの家ホームステイするからです。

13時間のフライトが終わり、ついにイタリアに着きました。初日のイタリア景色では、僕の中では、見るもの全てが発見でした。ローマでは、コロッセオを始め、真実の口やトレビの泉、スペイン広場などローマ市内の有名な場所に行きました。どれも迫力がありました。日本にはないものでした。特に心に残っているのは、真実の口です。手をかまれないか、ドキドキしながら口の中に手を入れてみました。手は無事でした。口の中は、たくさん人が手を入れたから少しつつりしていました。

ヴァチカン市国は、人口約800人と少なく面積も小さいと聞いていました。しかし、その中にあるサンピエトロ大聖堂は、とても大きかったです。



▲大きな声でおしゃべりは禁止です（ヴァチカン美術館）

いよいよチェルタルドへ出発です。チェルタルドの風景を見た時は、少し甘楽町に似ているなど思いました。畑がたくさんあり、

木々が生い茂っていました。対面式では、ホストファミリーが温かく迎えてくれました。これから数日お世話になるという事で、感謝の気持ちを込めて握手をしました。そして、ファミリーの家に行きました。車の中では、何を話せば良いかわからないまま家に着いてしまいました。いよいよ6日間のホームステイが始まると思うとドキドキした気持ちとワクワクした気持ちでした。

ホームステイ2日目は、市役所で公式歓迎会がありました。その後市場に行きました。市場は、賑やかで日本の市場と少し似ていました。

3日目は、ホームステイの人達とピサに行きました。まず始めにピサの斜塔に行きました。直で見たピサの斜塔は、テレビや写真で見たのよりすごく斜めでした。なぜ傾いているかという、地盤の土質が悪く、南側の土がやわらかいので傾いてしまったという事でした。傾いている理由がわかって良かったです。次に、公園で昼食を食べました。昼食は、マンマの手作りお弁当です。とてもおいしかったです。その後、サッカーや小さな国旗を使った遊びをし、海に行きました。冷たくて気持ち良かったです。その日の夜は、マンマの祖父母の家で夕食を食べました。とても歓迎してくれ感激しました。充実した一日でした。



▲世界遺産を撮影中（シエナ）

4日目は、家庭訪問がありました。家庭訪問を終え、シエナに行きました。シエナでは、日本語の観光ガイドを買ってもらったのでシエナの事がよくわかりました。

5日目は、フィレンツェに合同見学。僕は、

フィレンツェの中心街の小さな広場にいるポルチェリーノ（子豚）に興味を持ちました。そのイノシシの鼻を撫でるとまたフィレンツェ（イタリア）に戻って来られるという言い伝えがあるという事です。そのイノシシは、少しブサイクでした。たくさんの人に撫でられたから鼻がピカピカでした。

ホームステイ最終日。午前ヴィンチ村に行きました。レオナルドが発明した物がたくさん展示してありました。午後市民プールに行きました。深さを知らずに飛び込んだら2～3m位ありすごくビックリしました。

その夜、お別れ夕食会をしました。「上を向いて歩こう」を歌い「ソーラン節」を踊りました。時間が経つのがとても早かったです。はしゃぎすぎて声が枯れてしまいました。夕食会が終わったのは、1時半でした。僕は、この日の夜、明日が来ないでほしいなと思いました。しかし、時間を止めることができず別れの日になってしまいました。僕は、笑顔で別れる事ができて良かったです。ホームステイでは、我が子のように接してもらい充実した日を過ごす事ができ、一生の宝物になりました。

この研修で異国文化に触れ、日本では、経験できない事をたくさん学ぶ事ができたと思います。僕にとってこの11日間は、たくさんの楽しい思い出と色々な人と触れ合う事ができ貴重な体験でした。今度は、自分の力でイタリアに行きファミリーに会いたいです。団長始め、随員の方々、役場の方、この研修に携わった方々本当にありがとうございました。この貴重な体験をさせてくれた両親本当にありがとう。チェルタルド Grazie!



一生に一度の イタリア

1中 3年1組
金井理沙

私は、イタリアに行けて本当に良かったと思えました。イタリアの人はすごく優しく私達のことをたくさん考えてくださいました。おかげで私達は楽しく行ってことができました。そして私は、初対面の人とは話にくいという性格を少し克服することができました。私は、イタリアに行きたくさんのことを学びました。



▲みんなでマニキュアを塗りました（チェルタルド）

まずは、ホームステイでのことです。私は、行く前、不安でしたが、「笑顔でいよう」と思い、チェルタルド市に行きました。交流をして気付いたことは、言葉は通じなくてもジェスチャーや簡単な英語でコミュニケーションがとれることです。通じるかわからないけど挑戦しないとコミュニケーションがとれないので笑顔で話したりわかったら相づちを打ったりして会話をしました。時々わからない時もありましたが正直にわからないと伝えると携帯のアプリで調べてくれたりして一生懸命伝えようとしてくれたので私はその行動にすごく感動しました。なので私もできるだけ伝わりやすいように一生懸命しゃべりました。上手く伝わったかはわからないけど、伝えたいことは伝わったと思うので良かったです。そしてホームステイ先の人

達が「トマト」や「にんじん」や「きゅうり」や「肉」などの言葉を覚えてくれたのでうれしかったです。

次は世界遺産についてです。コロッセオやトレビの泉などに行き、見てきました。コロッセオは外見は写真などで見たことがあったけれど中までは知りませんでした。それに中で人々の戦い（試合）が行われていたり、動物同士の戦いがあったと聞いてびっくりしました。トレビの泉では、コインを投げました。コインの投げ方があるのを初めて知りました。正面から見て真ん中の神様の像は迫力がありました。最後の晚餐では、すごく見とれてしまいました。有名な美術館にも行きましたが、一番、ずっと見ていたいと思いました。しかも第二次世界大戦で残ったとは思えないほどきれいに残っていました。しかし最後の晚餐を見るためには厳重なセキュリティがあり人数制限や時間も決まっていました。中でも私が嚴重だと思ったのは入る時です。入る前に個室みたいなのが二ヶ所ぐらいあり見る人が全員個室に入ると次の個室のドアが開くようになっていました。最後の晚餐には目が見えない人にもわかるように絵を再現して掘った像もありました。



▲イタリア初ジェラート（ローマ）

私はイタリアに行って世界遺産や地下の墓地やホームステイ先の家のご飯を食べて交流をして思ったことは、やっぱり「行けて良かった」ということを心から思います。ホームステイ先の人達がピサの斜塔のバスツアーを計画してくれたり、夕食会の場所をとってくれたりたくさん迷惑をかけてしまいましたが嫌な顔一つせず笑顔で私達に接し

てくれました。私はそんなイタリアの人々が大好きです。私は大人になったらイタリアのチェルタルド市に行きまた会えたらいいなと思います。そして会えたら絶対感謝の気持ちを伝えたいです。今までかかわってくださった方々、ありがとうございました。



チェルタルド市を 訪問して

1中 3年1組
根岸 敬介

ぼくが、国際交流研修団に参加して感じた事は外国人とコミュニケーションをとることの大切さです。

ぼくは、英語が苦手な学校の先生にも心配されましたが、それでも自分は外国人との交流をしたいと思い、チェルタルドに出発しました。飛行機に乗ってる間、僕はイタリア語の参考書を読んでいました。でも、それも疲れたので読むのをやめて映画を見ました。ローマではガイドさんが日本語を話せるので日本語で質問をしました。



▲カンピドリオ広場（ローマ）

チェルタルド市に着いた時、いよいよホームステイが始まるとわくわくしました。でもホストファミリーに迷惑をかけたくないと思いながらホストファミリーの家に行きました。ホストファミリーはオリーブオイル会社社長のエリアーノさんと教師をしている

マリアさんと9才のダリオ君の3人家族で、ぼくは英語やイタリア語をあまり話せませんでした。ダリオ君とは遊びをしながら交流をしました。ぼくは宮代君にイタリア語の手伝いをお願いしながら、交流しました。

チェルタルドでは山の町やブドウワインの工場などの建物があり、オリーブの木やブドウの木などの植物がたくさん植えられていました。



▲GRAZIE!（チェルタルドお別れ夕食会）

ダリオ君の家の人をよく外出に連れて行ってくれました。特に城下町ではアイスをおごってくれました。シエナではいっぱい歩いて店や城などを散策しました。ホストファミリーのみなさんと地中海の浜辺で泳ぎました。地中海は汚かったですが、たくさん泳げてうれしかったです。

食事の時、僕はなるべく残さず食べようと思い、嫌いなトマトを食べました。でも、とくに大変だったのが食事のマナーです。音をたてずに食べる事や食べながら話をする事でした。でも深く厚い交流ができたと思います。

ホームステイ最後の日、市営プールに行き、ダリオ君やみんなといっしょに泳ぎました。そしてその夜にお別れ会をして楽しみました。僕は途中で泣いてしまいました。自分はチェルタルドを離れたくないといく中で強く思いました。でも日本に帰らなければならないので、とても悲しくなったのです。それはダリオ君も同じ気持ちだったので、2人も泣きました。

次の日、最後のお別れをしてバスが出発した後、僕はバスの中で号泣しました。でも交

流ができて良かったです。

この交流に参加して学んだ事は、言葉や出身や文化が違うけれど、心は通じるという事です。

言葉がわかれば、もっと交流ができます。だから、僕は帰国してから、特に英語に力を入れて勉強しています。ダリオ君にも英語で手紙を書きました。

このような経験ができたので、研修団に参加して良かったと思っています。ぼくの好きな歴史的な建造物・多くの世界遺産も直接見ることができました。

お世話になったホストファミリーのアルジッリさん一家とチェルタルド市の皆さん、野口団長さん、町の職員の方々、通訳のノ瀬さん、関係者の皆さん、本当にありがとうございました。



研修団員の経験

1中 3年2組
宮代典明

僕が約10日間に渡るイタリアでの研修で学んだ事、その中の一つにまず、コミュニケーションの大切さがあります。一口にコミュニケーションと言っても、その形は様々です。我々日本人はどうしても言葉や手紙を連想してしまいます。しかし、行った先のイタリアでは日本語は全く伝わりません。そこで大切だったのが、身振り手振りで気持ちを伝える事でした。イタリア始め海外の方は、大凡この身振り手振りを使っている、と聞いた事はあったのですが、自分でも使ってみると、なんととても意志の伝達が上手に行くのです。会話以外の事も大切だな、と思いました。

コミュニケーションの中でもう一つ、重要だと感じた物があります。それは世界の共通語こと英語です。中学の学習にもある英語ですが、自分ではこれまでにその真価を生かせ

ずに居ました。しかし、中学レベルの英語でも、相手にゆっくりと話してもらおう事で、それなりに会話として成立します。細部で間違えていても、だいたい合っていれば、ほとんどの場合に通じます。勉強して来て良かったな、と初めて思ったし、これからはもう少し気合いを入れて学習しよう、とも思いました。また、それだけで通じない時でも、辞書を使いながら、ゆっくりとでもコミュニケーションを取る事が出来ました。それに、行動自体をコミュニケーションとなる事がある事も学びました。



▲ボルチェリーノは大人気（フィレンツェ）

チェルタルド入り初日目の夜、恥ずかしながら、つい車の中で船をこいでしまいました。すると、御家族の方から“Are you sleeping?”と言われてしまいました。今思えば素直に答えても良かったかな、と感じますが、その時には失礼じゃないかな、と思い否定しました。言葉が通じないというのはこういう事なのか、と思いました。言っても通じない事がある、という事は、行動から考えられることが多い方が良いといえは良いですが、それだけ誤解を招かないように、と考えてしまう事も滞在中は多くありました。でも、ホームステイ先の御家族は、自分たちを良く思って、考えてくれているので、そう慎重になる事も無かったのかな、と思います。

イタリアで学んだ事の二つ目は、チャレンジする事の大切さです。というのも、まず出発する前に、この研修に参加してみたいな、と思った事は二回目なのです。ですが、一度目は参加する勇気が出せませんでした（2年前）。しかし、今回には参加する勇気が持て

ました。これはチャレンジと言っても良いと思います。これにより僕は、イタリアに行く事が出来ました。そこでも、英語で話してみる、イタリア語を使ってみる、苦手だった食べ物、見かけで少し引いてしまう食べ物も食べてみる、などなど、多くのチャレンジで、少し失敗はあったものの、その全てが大きな経験となりました。



▲やっぱり買ってしまいました（ミラノ）

自分が学んだ、この二つの事をこれからに生かし、やがては世界を舞台として動けるような人間になれるように、日々にこの経験を共に積み上げて行きたい、と思います。



チェルタルド市に 訪問して

2中 1年A組
村田真子

私は、イタリアのチェルタルド市に訪問していろいろなことを学びました。言葉は通じなくても、ジェスチャーで一息懸命頑張れば伝わる、ということを知りました。また、国は、イタリアと日本ということで違うけれど、本当の家族のように仲良くなれるということも学びました。

イタリアには、8月15日～25日の、9泊11日しました。でも、その中でチェルタルド市に滞在できたのは、6泊7日だけでした。ちょっと行く前は、「多いなー」と思っ

ていましたが、行ったらあつという間でした。

イタリア研修の日程は、1日目に日本を出発して、2日目は専用のバスでスペイン広場を見たり、トレビの泉に行ったり、コロッセオに行ったり、真実の口を見たりしました。3日目は、サンピエトロ寺院に行ったり、システーナ礼拝堂に行ったりしてその後に、ホストファミリーとの対面式をしました。その後は、各ホストファミリー宅に行きました。4日目から8日目の5日間は、ホストファミリー宅で過ごしました。9日目は、ミラノ観光をしました。10日目は、ミラノ市内観光をしました。お昼ぐらいから飛行機に乗り、11日目の朝に成田空港に着いたというかんじです。



▲何を飲んでいるのかは内緒（チェルタルド）

その中で、私が一番印象に残っているのは、ホームステイ中に、イタリア研修団のみんなとホームステイの人たちのみんなと一緒にいった市営プールです。そこは、すっごく底が深くて、足がつけなくて、最初はすっごく怖かったけどだんだん慣れてきて、飛び込んだりもしました。そこでは、イタリアのみんなも、日本の研修団のみんなも関係なく落としたり、落とされたりもしていました。私はどちらかというのと落とされる側だったけど、すっごくすっごく楽しかったし、おもしろかったです。

二番目に、印象に残っているのは、ホームステイ中に、前に仲良くなってずっと会っていなかった「エンマ」という女の子と「カルロッタ」という女の子に会えたことです。エンマとカルロッタは、以前私の家にホームステイをしたときに仲良くなりました。2人と

も元気そうだったので、私まで、元気になりました。その2人とは、今でも、パソコンでメールのやりとりをしています。また、カルロッタの家は、ピザ屋さんなので、ホームステイ中に連れて行ってもらいました。その日は、真夜中の12時30分くらいまでずっと遊んでいました。そんなに遊んだことがないので、すごく楽しかったし、おもしろかったです。



▲サンシーロでお土産GET（ミラノ）

三番目に印象に残っているのは、ホームステイ中に「シエナ」というところに行ったことです。シエナでは、いろいろな店があったので、そこでおみやげを買ったり、自分が欲しい物を買ったりしました。シエナは、もしもう一回イタリアに行くことが出来るなら、絶対に行きたいです。

私は、イタリアの研修団として、イタリアのいろいろなところに行けて、今思えば、本当に私は幸せ者だったなと改めて感じます。もうきっとイタリアには行けないと思うので、このホームステイの経験を生かして、これから生きていければなと思います。ホームステイの家族の人は、私の家族と同じで、大好きです。また機会があればみんなと会いたいです。



イタリアでの 最高の思い出

2中 1年B組
富岡 皇貴

僕は、小学校の時から、イタリアに行き様々な建物が見たいと思っていたので、抽選会で当選した時はとてもうれしかったです。

そして、事前研修や準備などをして、あつという間に出発の8月15日になりました。成田空港へ向かうバスの中では、イタリアに行けるという楽しみがとて大きくなっていました。

空港に着き飛行機に乗った時は、とてもワクワクしていました。僕は飛行機は二度目だったので、不安はありませんでした。飛行機ではローマまで、12時間でした。長くも感じられたし、短くも感じられました。

ローマ空港に着いた時は、「もうイタリアか!」と思い、テンションMAXでした。

ホテル行きのバスの中でも、イタリアの色々な街並みを見て「やはり日本と違うな。」と思いました。



▲レストランで昼食（ローマ）

イタリア初のレストランでは、本場のパスタがとてもおいしかったのでお腹いっぱい食べました。食事をしていると、フルーツとギターを持った人が「上を向いて歩こう」を演奏してくれました。上手な演奏を聴くことができ、イタリア1日目の夜はとても楽しかったです。

16日はイタリア観光をし、17日はヴァチカン市国へ行きました。ローマの建物はとても大きくて迫力がありました。特にコロッセオは再建されていないと聞いて昔のまま現在まで残っているということに驚きました。



▲ホストファミリー主催バスツアー（ピサ）

ヴァチカン市国へ行った後、チェルタルドへ向けて出発しました。チェルタルドへ着き、対面式で初めてホストファミリーの家族と会いました。お父さんとお母さんは優しくでした。でも自分のイタリア語が通じるか不安でしたが通じなくても一生懸命話そうと思いました。

ホストファミリーの家はとても広くてきれいでした。夕ご飯はお母さんが作ってくれました。日本では食べたことのない料理だったので、おいしくていっぱい食べました。その後に上の町に行きました。夜景がすごくきれいでした。疲れでとても眠かったです。

19日はピサの斜塔に行きました。ホストファミリーのお父さんお母さん達が特別に企画してくれたのでうれしかったです。バスの中は大盛り上がりでした。そして本物を見たときは思った以上にかたむいていて驚きました。その後に海に行きました。海では大はしゃぎでした。海水はあまりきれいではなかったけれど、日本と同じく塩の味がしました。たくさん遊べて楽しかったです。

その後も、色々な所に連れて行ってもらいあっという間にホームステイ最終日になりました。夕食会では皆で楽しい時間を過ごしました。ホストファミリーのガブリエーレはもちろんガブリエーレの友達ジュリオな

どとたくさん話して、たくさん笑いました。言葉は違うけれども「国際交流で深い絆が結ばれるんだな。」と思いました。最後に僕達から「上を向いて歩こう」「ソーラン節」を披露しました。とても気持ち良く歌って踊ることができました。この日は一生忘れないと思います。

そしてチェルタルドを出発する日僕はお世話になったホストファミリーの家族に感謝の思いを伝えられたので良かったです。

そしてチェルタルドからミラノへ行きました。ミラノにも大きな建物がいっぱいありました。

僕はイタリアの文化を肌で感じる事ができ、たくさんの驚きや発見がありました。機会があればまたイタリアに行ってチェルタルド市に行きたいです。この交流は貴重な体験となりました。僕を温かく迎えてくれたホストファミリーの方やイタリアでお世話になった方々に感謝したいです。ありがとうございました。



イタリアへ行って

2中 2年A組
加藤大虎

僕は、第14次チェルタルド訪問に行って、とてもたくさんの良い思い出、体験ができました。

僕がイタリアで初めておどろいたのは、バスがとても大きかった事です。僕達十数名に対して何十人も乗れるバスでした。このバスに慣れた後、日本のバスに乗るととても小さく感じました。

イタリアに来て2日間ローマにいました。ローマは、ほとんどの建物が遺跡のような美しい物ばかりでした。その中でも、世界的に有名なコロッセオは、特にすばらしかったです。コロッセオの中は、暑くてとてもつかれ

ましたが、何千年も前からある建物に入れたかと思うと、とても良い体験でした。他にもローマでは、トレビの泉や、カタコンベなど行きました。あと、ヴァチカン市国にも行きました。ヴァチカン市国内にある美術館は、さまざまな物があり、中でも、彫刻が気に入りました。美術館だけでなく、大きな教会にも行きました。とても天井が高く、見ていて、変な気分になりました。

ローマを見学した後、バスでチェルタルドへ行きました。チェルタルドでは、ホストファミリーのみなさんがかんげいしてくれました。そこで集合写真をとった後、各家庭に分かれました。僕は晴輝君とペアを組んで、アンドレアの家へ行きました。アンドレアのお母さんはとてもパワフルでした。お父さんは優しい人でした。ホームステイ初日は、さっそくチェルタルドの街でジェラートを食って行ってきました。とても冷たくておいしかったです。この日からほぼ毎日アイスを食べました。アンドレアとは、プレステで遊びました。アンドレアも僕も一進一退の良い勝負ができました。

次の日はアンドレアの友達のだリオの家のプールへ行きました。びっくりしたのは、家にプールがあるのと、プールが思った以上に深かったことです。だリオの家ではこの日バーベキューをしました。とても楽しく、料理もおいしいものばかりでした。



▲コロッセオに行くぞ！（ローマ）

次の日もだリオの家へ行きました。ホームステイ中、他にも様々な場所へ行きました。巨大なスポーツセンターや、城がある町、チェルタルドの上の町にも行きました。どの場

所もおどろく事ばかりでした。上の町には、日本の茶室がありました。あと、団員全員と一緒にいった、ピサ、フィレンツェは、みんなではしゃげて非常に楽しい時間を過ごすことができました。ピサの斜塔では、たくさんの写真を撮りました。ピサでは他に海も行きました。あまりきれいな海ではありませんでしたが、楽しむことはできました。



▲ピザを2枚平らげました（ローマ）

フィレンツェには電車で行きました。電車の内部も日本とは違いました。ホームステイ最終日には、チェルタルドの市民プールに行きました。プールはとても深く、とびこみも出来ました。僕はハメをはずしすぎて、プールサイドで足を切ってしまいました。その日の夜は、研修団とホストファミリーの方々にレストランで食事をしました。ピザもパスタも全ておいしかったです。その後、ソーラン節や、上を向いて歩こうを歌ったりしました。ホストファミリーのみなさんと別れるのはつらかったけれど、本当に感謝しています。

チェルタルドを後にし、ミラノへ行った僕たちは、ミラノ大聖堂へ行きました。ステンドグラスが非常にきれいでした。他にも、レオナルド・ダ・ヴィンチの描いた最後の晩餐を見学しました。いままで普通の絵と思っていたら壁絵だったのでびっくりしました。最後の日は飛行機に乗るだけでした。

10日間ではあったけど、一生思い出に残る出来事でした。また機会があれば行きたいです。今度はもっとイタリア語を話せるようになりたいです。



イタリアに行って

2中 2年A組
堀口晴輝

僕はイタリアに行くととても貴重な体験ができたと思います。

僕は、ホームステイを初めてしました。ホームステイは初め言葉が通じず戸惑いましたが、友と協力して辞典や会話集を使い、なんとか話しました。そして通じたときは、とてもうれしかったです。だんだんと慣れてくると、ホストファミリーの人たちに、イタリア語をたくさん教えてもらいました。覚えたイタリア語を話すと、大人の人たちはとても喜んでくれました。僕も打ちとけたのでうれしかったです。

ホームステイ中に食べたイタリアの料理はとてもおいしかったです。イタリアの家庭の味が味わえてよかったです。僕がホームステイをしたところでは、パスタが主に出ましたが、そのパスタがとてもおいしかったのであきることはありませんでした。中でもショートパスタのフレッシュトマトが一番おいしかったです。他にもリゾットやパン、ケーキがおいしかったです。



▲ホームステイに行ってきます (チェルタルド)

ホームステイをしている時はほとんどプールで泳いでいました。泳がない日が5日分の1日だけで、ほかの日はプールや海で泳いでいました。イタリアのプールはとても深く

で驚きました。初めそれを知らずにとび込んだら少しおぼれてしまいました。そこはやっぱり日本と違いました。

日本と違うといえば気候も、全然違いました。日本は夏、むし暑いです。けどイタリアは乾燥していて日本よりは少し涼しかったです。なので過ごしやすかったです。

また、家の作りも日本とは違いました。イタリアの家はほとんど、石でできていたので熱がこもらないからとても涼しくって寒いくらいでした。

観光もとても楽しかったです。真実の口では手がなくなることもあると聞いたので、心配してたけどなくならなかったのよかったです。



▲ミラノのシンボル大聖堂の前で

コロッセオとミラノ大聖堂はとても壮大で特にミラノ大聖堂は、人が作ったとは思えないほどすごかったです。

イタリアのレストランでは驚きました。行ったレストラン全部ドリンクがコーラとSpriteとファンタと、オレンジジュースだけだったのです。日本では色々な種類のドリンクがあるけどイタリアでは、4種類しかありませんでした。

日本とは違うところがイタリアにはたくさんありました。ふり返るとそういうところはたくさんありました。そして初めて体験したホームステイはとても貴重な体験になりました。ホストファミリーの人とも本当の家族のようになれました。このような体験ができてとても良かったです。最後にこのような体験ができたことにとっても感謝しています。



イタリア訪問感想

2中 2年A組
松田 祐斗

僕は、今回のチェルタルドに中学生研修団員としてイタリアに行きました。僕は外国に行くのは初めてで、国内での旅行とはちがう準備をたくさんしたので準備がおもしろかったです。

僕は、イタリアに行くのが初めての海外旅行だったので、出発の前の夜はぜんぜん眠れませんでした。役場をバスで出発し成田空港までの道がすごく長く感じました。バスではとても眠かったです。成田空港に着いて、飛行機に乗って少し不安だったけど、一度乗ったことがあったので、よゆうがありました。

空港で初めて1人でチェックインをしました。チェックインは不安ばかりだけど、今回学ぶことができてよかったです。

飛行機の中では、映画を見たり、ゲームをしたりして、楽しかったです。

イタリアに着いたら、午後でした。



▲ホテル ノルド ノーヴァ ローマに着きました

次の日は、ローマを観光しました。ローマには、僕が小さかった時に行ってみたかった世界遺産がたくさんあってとても楽しかったです。

その中でも、コロッセオやトレビの泉が一番といっていいほどのものだったので、その二つだけで写真をたくさん撮ってしまいま

した。

次の日に、ヴァチカン市国という世界一小さい国に行きました。

とても、環境がきびしくて大変だったけど、美術館はとてもすごかったです。

次の日は、チェルタルド市に行きました。僕は、イタリア語がぜんぜん話せなかったのので、ホストファミリーの人達とうまくいか心配でした。しかし、iPadでゲームをやらせてもらったりして楽しかったです。



▲これから歓迎式です (チェルタルド)

次の日は、いままでなかったホストファミリーの人達でピサの斜塔に連れて行ってもらうことになりました。僕は、ピサの斜塔にも行って見たかったので、とてもうれしかったです。午後には、みんなで海に行きました。海の水はあまりきれいではなかったけれど、みんなといっしょに深い所まで行ってみたいしてとても楽しかったです。

次の日は、家庭訪問がありました。自分の家ではないのに、きんちょうしてしまいました。その後に、ホストファミリーの人とシエナに行きました。僕はシエナという町を知りませんでした。しかし、行ってみると、石畳で、とてもすごい所でした。

次の日は、フィレンツェに行きました。フィレンツェには、美術館があります。そして丸天井の建物があったりで、町の景色がとてもきれいだったです。

次の日は、ダ・ヴィンチ村に行きました。そこには、今の時代にも使われているほどの物を作り出して、それが展示してあって、それは、技術がとても必要な物ばかりだったので、とても、勉強になりました。最後にキー

ホルダーをたくさん買いました。

その日の夜にお別れ会をしました。ピザ専門店だったのでピザがとてもおいしかったです。みんなでダンスをしたりして楽しかったです。

次の日の朝、チェルタルドを出発しました。とても、楽しい日が続いたので少しさみしかったです。その後にミラノに行きました。ミラノでは最後の晩餐を見ました。絵で見るより実物はとても大きくてすごかったです。

次の日は、インテルの活動しているスタジアムのオフィシャルショップでお土産を買ってよかったです。

そして、日本に帰りました。楽しい日は早く過ぎてしまって、もっとイタリアにいたかったです。

今回、僕の知らなかったことをたくさん学ぶことができ、とてもいい経験になってよかったです。



夏の思い出

2中 2年A組
丸澤 幹 仁

僕は日本に帰る日、あともう少しだけイタリアにいたいなあ～、と思いました。

この11日間のイタリア研修は、長いようであっという間に過ぎていってしまいました。その中で、僕が最も印象に残っているのは、ホームステイです。

日本でも、親せき以外の家に泊まったことは無いので、とても楽しみでした。僕はフランチェスコとアレッサンドロという兄弟の家にホームステイをしました。2人の家は高台にあり、テラスが広く、チェルタルドの町並みを眺めることができました。初日は疲れと緊張から、あまり会話もできず、夕食後、全員で映画を見ていたらソファで寝てしまいました。



▲お別れ夕食会でハッピーをプレゼント (チェルタルド)

2日目からは、学校で習った英語を使ってコミュニケーションをとることができました。チェルタルドの町を案内してもらったり、シエナという世界遺産の町にも連れて行ってもらったりしました。チェルタルド市には城があり、その城にのぼって中を見学し、屋上からは、チェルタルドの町を一望できました。日本とはちがいで、日差しが強く、乾燥していて緑が少なかったです。また、夜の8時頃まで明るいので、びっくりしました。

フランチェスコとアレッサンドロとは、よくゲームをして遊びました。2人とも iPad を持っていたので、びっくりしました。アレッサンドロとは、一度だけチェスをしました。けっこういい勝負で、あともう少し!、というところで寝る時間がきてしまったので、少し残念でしたが終わりにしました。でも、とても楽しかったです。



▲ヴィットリオ・エマヌエーレ2世のガッレリア (ミラノ)

ホームステイをして驚いたことは、食生活のちがいです。イタリアの人は、朝食をコーンフレーク1杯ぐらいで終わりにしていました。僕はこれだけでは、おなかがいっぱい

まうと思いましたが、意外と空腹にはなりませんでした。

また、食事の時間帯も日本とはちがいで、昼はいつも2時ぐらい、夕飯は8時ぐらいです。そのせいか、日本に帰ったころには、早くおなかがすかないようになりました。食事をする場所は広いテラスで、外の景色を見ながら食べました。食事のメニューは、パスタが多かったのですが味付けやパスタの種類がいろいろあって、あきずに食べることができました。中でも日本でいうマカロニのショートパスタはトマトソースと良く合っていて、とてもおいしかったです。

ホームステイ最後の日には、研修団とホストファミリー全員で、チェルタルド市の市民プールに行きました。日本のプールと比べて、とても深かったです。深いので、たくさん飛び込みました。空中で前転しながら飛び込んだり、イタリアの子に投げてもらって飛んだり、とても楽しかったです。

プールの後は、お別れ夕食会です。食べたり、飲んだり、踊ったりしました。とても楽しかったです。その日はみんなで、別れを惜しみ、夜の1時過ぎぐらいまで、さわいでいました。次の日、チェルタルド市を出発しました。ホストファミリーとの別れ際、少し涙が出そうになりました。ホームステイはイタリア研修の中で最も思い出に残りました。とても楽しく、多くのことを学ぶことができました。また、いつかイタリアに行きたいと思います。そして、イタリア以外の国にも行ってみたいと思っています。

僕はホームステイの家の人と話すとき、相手の目を見て話すようにしました。それは、相手の人も僕の目を見て話してくれたからです。言葉が分からなくても相手の目を見て、話せば、自分の意志を伝えることができたように思いました。

僕はこれから、ホームステイで教えてもらった相手の目を見て話す、ということを大切にしていきたいと思っています。



イタリアに行って 学んだこと

2中 3年B組
田 中 里 奈

私は、今回イタリアに初めて行きました。そして私はそこで普段日本にいと、体験できないようなことをたくさん体験することができました。

例えばそれは、教会の見学です。

日本では、仏教が主流です。ですがイタリアに行ってみると主流の宗教がキリスト教でした。そのため、美しい教会が数多く存在し見学することができました。

しかし、宗教の違いから教会に入る時に着ている服が短いと中に入れれないということは知りませんでした。だから初めて着ている服の長さで入場制限がある体験をしました。最初は驚いたしどのぐらいの長さの服を着ればいいのかのさうと思ったりしていましたが、たくさんの教会に行くうちに慣れてきました。



▲シャッターチャンスが止まらない

次にホームステイです。

私は、イタリアに行く前からホームステイがとても楽しみでイタリアに着いてホームステイをするまでとても待ちどおしかったです。しかし、ホストファミリーの方々とうまくコミュニケーションがとれるか、迷惑をかけずにステイできるか、言葉や言いたいことがちゃんと通じるかなどの不安が心のど

ここにありました。そして、ホームステイをしてみるとホストファミリーの方々は、私たちに優しくしてくれました。それだけではなく、あまり話せていない私のイタリア語や英語を理解しようとちゃんと耳をかたむけてくれました。そのおかげで不安だったコミュニケーションもなんとかとれ、ホームステイでは、とても楽しく充実した時間を過ごすことができました。

また、ホームステイをしている間にホストファミリーの方が見学とは、別の色々な建物を見に連れて行ってくれたり、買い物に連れて行ってくれたりしました。

中でも一番印象に残っているのは、夕食後にそのまま公園に遊びに行ったことです。

公園には、たくさんの人が集まっています。そこで私たちは話をしたり遊んだりしました。

話をしたときはイタリア語で話されたので正直、話の内容を理解できなかったこともありました。

しかし、表情やコミュニケーションをとろうとする気持ちがあれば大体の言いたいことや伝えたいことは伝わるといことが分かりました。そして伝わったときに一緒に笑えた体験はすごく貴重な体験だったと思いますし、何よりも嬉しいという気持ちが大きかったです。

最初イタリアに行って言葉が通じなくてモヤモヤしていたときの気持ちが一瞬にして吹き飛ばすような気がしました。だからこの体験ができて本当に良かったです。



▲予約の取れない店で有名な“リドのピザ屋”にて（チェルタルド）

そして、この体験は、日本という国を出てイタリアという言葉も文化も全く違う国に

行ったからこそできた体験だと私は思いました。だから、私は今回のこの海外派遣で知ったことや学んだこと、体験をしたたくさんのことを、これからの人生でちゃんといかせていけるようにしたいと思いました。



相互派遣交流の定着

通訳

一ノ瀬 俊和

今回の青年交流も、先ず8月初めにチェルタルドの青年たちが甘楽町を訪れ、その直後8月中旬に日本の中学生たちがイタリアの彼らの許を訪れるという「同年相互派遣方式」で行われた。受入れと派遣を同時期に行わなければならない事務方の負担は日伊双方で相当に大きいですが、そのメリットは非常に大きいということも今回もまた実感した。もともとは姉妹提携25周年に、チェルタルドのキャンノーティ市長の提案で始まったこの方式が、すっかり定着してきたようだ。

この方式の一番よいところは、何より子供たちがとてもリラックスして交流が出来ることだ。すでにお互いに知り合っている「友達」どうしだから当然とはいえ、肩に力が入らず国際交流が自然に出来ている。自分のホストファミリーの子供たちだけではなく、他家の子供たちとも一緒になって遊んだり、行動したりすることが当たり前になり、実ののびのびと過ごしている。実際、世界遺産にもなっている隣町のサン・ジミニャーノ見学なども数家族がまとまって出かけたようだ。十年以上前には、日本人どうして固まったり、ファミリーでも自室にこもって出てこない子がたまに見受けられ、問題になったりしたことがあるが、隔世の感がある。

こうした子供たちの伸びやかさは、親にも波及効果を与えている。楽しそうに振舞う子供たちの様子を目の当たりにして、親も交流

の素晴らしさを実感するのであろう。出来るだけサポートしてあげたい、子供の友達に快適に過ごしてもらいたい、という気持ちが自然に強まるのではないかと思われる。2年前の交流では、親たちがお揃いのピブス（ゼッケン）を作ってくれ、フィレンツェ訪問のお手伝いにたくさん参加してくれた。今回は、週末を利用して、すべてのホストファミリーとその子供たちが一緒になって日本の子供たちを、人気スポットであるピサの斜塔の見学とその近くの海岸での海水浴に連れて行ってくれた。

毎回フィレンツェ見学はみんないっしょにすることになっているが、長い交流の歴史を振り返ると、これまでもそれ以外に「団体行動の日」を設けて、シエナやヴォルテッラなど近隣の町の見学に出かけたことはある。こうした企画は、もちろんそれなりに成果を挙げたが、どれもチェルタルドや甘楽町の主導で行われたものである。今回のピサ行きが特徴的なのは、親たちの自主企画ということだ。国際交流は、当初は行政側がいろいろ考え準備するが、やがては草の根の自主的な交流にしていくのが理想、とよく言われる。まさに、今回はそれを地で行くお手本になった事例だと言えるだろう。それもこれも、やはり長年の姉妹都市交流の成果に違いない。当初から甘楽町とチェルタルドの交流を見守ってきた私としては、一粒の麦がここまで成長したのだと、感慨新たである。



▲ロザルバ・スピーニ前市長と偶然の再会（上の町）

第14次甘楽町中学生研修団は、このように全体的にはとてもよい交流が出来たと思う。研修団員はみなしっかりしていたし、団

体行動時の時間もきちんと守れた。団長はじめ随員も、親身になって子供たちの世話を焼き、とても暖かい雰囲気の中で子供たちを包んでくれ、ホストファミリーや市の関係者らとも親交を深めることが出来た。なお、今回特に印象的であり時勢を感じたのは、研修団の行動が町のHPにほぼリアルタイムで配信されたことである。担当の随員は、見ていて気の毒なほど忙しく、どこに行っても常に撮った動画や写真を迅速に整理し送る作業に当たっていた。ほんとうに、お疲れ様でした！おかげで、日本の親御さんや関係者は随分安心したのではないかと思う。

ホームステイでの楽しい思い出は、終生忘れがたいものだろう。中学生のみなさんには、このほんとうに貴重な経験を生かして、ぜひ自分の視野を広げ、将来またチェルタルドを再訪してほしい。そこには、きっと友達が待っている！



心が落ち着く町 チェルタルド

随員
田村昌徳

「チェルタルドはいい町だよ。また行きたいね」。これまでチェルタルドを訪問した方々の多くから同じ言葉を聞いていました。しかし、初めて訪問するイタリア、ましてや中学生16人をお預かりする随員の私には、期待を抱きつつも実際に訪問するまでは半信半疑でした。

研修を終えた今、私もチェルタルドの素晴らしさを、声を大にして伝えたいと思います。その要因は、なにより16人の団員が仲良く、真面目に積極的に交流してくれたことです。そして、子どもたちを家族のように受け入れてくれたホストファミリーとチェルタルド市関係者の温かい歓迎も、今回の研修を大成功にしてくれた最大の要因です。心から感謝

しています。

こうして報告記を書きながらイタリアの日々を思い返しても、一つひとつのシーンが大切な出会いと感動の連続であり、ツアー旅行では味わえない経験だったと思います。

ローマからチェルタルドへ向かうバスの車窓から見たのは、黄褐色のなだらかな丘陵地帯とオリーブやブドウ畑、収穫を終えた小麦畑や牧草地帯でした。山や断崖の上には、いたるところに中世を思わせる城壁に囲まれた小さな街並みが残り、高く突き出した鐘楼や教会の周囲にはレンガ積の家々が密集しています。日本では歴史的な観光地になりそうな景色がいたるところに点在しているのに驚かされます。その中でも、保存状態が良い街並みは当然のように世界遺産に登録されています。



▲いつも一緒だったマッシモ(チェルタルド)

トスカ
ーナ地方
独特の景
観を楽し
みながら
到着した
チェルタルドは、
初めて訪
問したと
は思えな
いほど心
が落ち着
く街でし

た。茶色のレンガ造りが黒い瓦屋根であったら、甘楽町と間違ふ気さえします。29年前に姉妹都市締結がされた由縁がわかったような気がしました。

さて、今回の中学生研修団は、2週間前の事前交流の成果もあり、バスを降りた瞬間から笑顔の再会でした。ホストファミリーとの対面では、多少緊張の様子も見られましたが、私たち随行員に「行ってきま〜す」と元気に手を振ってそれぞれの家庭に向かいました。

子どもたちがホームステイをしている一週間、私たち大人は市役所の方々と行動を共にし、市内視察や関係者との打合せを行ない

ました。

市役所の目の前にそびえる小高い山には、上の街「アルト」と呼ばれる中世の歴史的街並みが大切に残されています。ここに住むことは市民の憧れだそうです。人々が生活をしながら、一部はホテルやレストラン、カフェ、博物館として利用されています。居住者以外の車両乗り入れを制限し、色彩統一や建築規制で守っているそうです。

どの建物も日本でいえば鎌倉や室町時代のもので、江戸時代の建物は新築物件？と言われるほどの歴史かもしれません。さりげなく置かれた調度品も深い輝きを放っています。数百年前のモノが当たり前のように使われているというのは、さすが世界遺産の数が世界一の国だと実感します。

特に驚いたのは、日が暮れてから夜遅くまで市民が道路上に集い、イスに腰掛けて会話を楽しんでいることです。夕涼みの意味もあるそうですが、80歳は優に超えているであろう高齢者が、23時を過ぎても街中に出てくる。日本では忘れられてしまったようなコミュニティが残っており、人生を楽しむイタリア人気質を感じました。

人生を楽しむといえば、イタリアの食文化も驚きでした。朝食は比較的軽めですが、午後1時頃から始まる昼食は、ワインや会話を楽しみながら4時頃まで続きます。夕食は早くて午後8時頃から始まり、12時近くまで楽しめます。今回は6軒のお宅で昼食や夕食に招かれ、イタリアのマンマ(母)の味を堪能しました。日本食を恋しくなると思いましたが、イタリアの家庭料理に飽きることはありませんでした。心配して持参した梅干しとごんじり(たくあん)は、結局自分が食べることはなく、チェルタルドの皆さんに試食してもらいました。

ホームステイが半分過ぎた頃、子どもたちがお世話になっている8軒の家庭訪問をしました。郊外の一戸建てから中心部のマンションまで様々でしたが、どのお宅も隅々まで掃除が行き届き、外観からは想像できないくらいオシャレでした。絵画や小物、家族の写真などをきれいに飾り付けてあります。子ど

もに過保護と言われるイタリア人ですが、家族を大切に作る温かい雰囲気が伝わってきます。



▲プレトリオ宮殿を撮影中（チェルタルド）

今回は、夫婦の寝室や子ども部屋を甘楽町の子どもたちのために空けてくれたホストファミリーも多くいました。また、ホストファミリー同士が相談し、大型バスをチャーターした日帰り旅行を用意してくれました。随行員は同行せず、イタリア家庭の一員として世界遺産ピサの斜塔見学と海水浴を楽しみました。

チェルタルド市の担当者は「長年の交流が積み重なった成果で、受け入れの方法もわかってきた」と言っていました。しかし、随行員から見ると、8軒のホストファミリーを中心となってまとめてくれた保護者がいて、それに賛同して各家庭が経費負担をしてくれたからこそであり、今回の子どもたちは大変恵まれていたと感じています。

チェルタルド最後の晩、午後9時から郊外のピザレストランで開催されたお別れ夕食会。甘楽町の子どもたちもホストファミリーも、初日に見せたような不安な顔はなく、終始にぎやかに食事が進みました。

午後11時30分を過ぎた頃、やや眠そうだった甘楽町の子どもたちの出番です。渡航前に練習してきた「上を向いて歩こう」の合唱と、「よさこいソーラン節」の踊りを、感謝を込めて贈りました。これまでの練習を通して一番の出来だったと思います。

踊りが終わると同時に、私たち大人が指示したわけでもなく、子どもたちは着ていた揃いのハッピーを脱ぎ、それぞれのホストファミ

リーに駆け寄ってプレゼントしました。涙を流しながら抱き合う姿は、この一週間のホームステイの成果を象徴しているかのようでした。

その後も、日伊双方の子どもたちがパフォーマンス合戦を繰り広げ、ホストファミリーの親たちも加わって輪になって踊りました。あまりの大騒動にご近所の高齢者も見物に訪れ、苦情ではなく手拍子を送ってくれた方もいました。真夜中の夢のようなひとときでした。

チェルタルドの思い出ばかりが頭をよぎりますが、初日に訪れた首都ローマの古代遺跡、ヴァチカンやフィレンツェの見事な絵画や彫刻は、長い歴史に培われた威厳に満ちていました。いつの日か必ず再訪し、時間を忘れてじっくり鑑賞したいと思っています。

今回の研修を通して団員たちは、ほんの少しの日常会話と笑顔があれば違う国でも友達になれることを実感したことでしょう。この経験を生かし、臆することなく世界に飛び出して行ってほしいと願っています。

そして、今回の感動を心の片隅に大切にしまっておいて、いつの日か、自分の力でチェルタルド市を訪問し、なつかしい友人に再会してくれることを期待しています。



～私的イタリア 報告記～

随行員
大河原 敦子

ローマから始まったイタリアの旅。古代ローマ帝国の遺跡は、その圧倒的な存在感で2000年の時を超えてなお、文明の高さと繁栄を雄弁に語りかけているようでした。翌日のバチカンでは、美術館に収蔵されている歴代教皇のコレクションもさることながら、部屋ごとに装飾が変わる壁・天井の美しさにも贅が尽くされていました。イタリアでは義務教

育の教科に美術と音楽が無いと聞いています。なるほど本物の芸術に囲まれて暮らしているイタリア人にとって、芸術は教えて貰うものではないのかもしれませんが。



▲Locanda Linando IIにてシモネッタと

曲がったり、左へ曲がったりと、交通さえも何だかのんびりとしていました。マチェッリ広場では、シルヴィア夫妻(第7次使節団随員)はじめ、関係者・ホストファミリーたちが出迎えてくれていました。暖かい歓迎を受け、対面式を終えると団員たちは、ホストファミリーと連れだってそれぞれの家庭へと帰って行きました。団員たちがホームステイ中、私たち随員は市内のホテルに滞在し、チェルタルド市の立てたスケジュールで過ごしました。私たちにはいつも通訳が同行していましたが、団員たちは言葉も不自由の中、いくら自分の意志でやって来たとはいえ、初めてのイタリア、初めての家庭で過ごすその不安と緊張感は、計り知れないものだったと思います。

明けて公式歓迎式。市役所前のボッカチオ広場に現れた団員たちは、ホストファミリーと過ごした初めての夜のことを楽しそうに教えてくれ、細かいことまでは伝わらなくても英語や身振り手振りで、どうにか意志の疎通はできていたようでした。

家庭訪問では全ての受入家庭で団員たちの様子、また通訳を介して互いに伝えたいことなどを聞いて回りました。どこの家庭でも団員たちは大切にされ、家族同様に深い愛情

チェルタルドは小ぢんまりとした可愛らしい街で、道路が交差する箇所にも信号もなく、くるくるとロータリーを回

を注いでもらってました。ホストファミリーのみなさんは、私たちにもフレンドリーに接してくれ、家の隅々まで見せてくれます。どこのお宅もピカピカに磨き上げられ、それぞれの個性で室内は装飾されていました。また、数軒の家では食事も御馳走になり、イタリアのどんなレストランも敵わないマンマの味を堪能させていただきました。

今回の研修では、ベテラン通訳の一ノ瀬氏も驚く三つの「初めて」がありました。まず、一つ目は、ホストファミリー主催のバスツアーです。ファヴィオ ヴェッキヤレッリさんの発案で、団員たちをピサの斜塔や海水浴へ連れて行ってくれました。また彼は、子どもたちがより仲良くなれるようにと、現地でのゲームも用意してくれていました。同行はしませんでした。後日ファヴィオから戴いた画像データから、大いにはしゃぐ子どもたちの様子を垣間見ることができ、ホストファミリーのみなさんには本当にお世話になりました。

二つ目は、バス会社を経営するマルコ ピーニさんが無償で、バスだけでなく運転もしてくださり、私たち研修団をヴィンチ村へと連れて行ってくれました。くねくねとした坂道を昇った小高い山の上にダ・ヴィンチの生まれた家と博物館があり、公共交通の無いこの村には、一般の観光客が訪れることは稀だということですが、私たちはマルコさんのご好意で訪れることができました。

さて、三つ目はエリアーノ アルジッリ(ホストファミリー)の息子、小さなダリオが私に彼の描いた水彩画をプレゼントしてくれたことに端を発します。「チェルタルドで額を買って帰るわね。」と、彼に約束した私をシモネッタ(市役所職員)が額縁工場に案内してくれ、社長のセッリさんは自ら材料を刻み、ジャストサイズの特製額をその場で作ってプレゼントしてくれました。一ノ瀬氏は何度もこの工場を訪れているそうですが、こういったことは初めてのことだそうです。セッリさんは1994年にホストファミリーとして第4次研修団を受け入れています。その時の団員たちのことを今も忘れずに、気にか

ていてくれました。これらのことは、これまでの長い長い交流の積み重ねの成果だと感じています。

お別れ夕食会には、本当に沢山の方が出席してくれました。ホストファミリーはもとより、第7次使節団で甘楽町へ来た子どもたちとその家族も集まり、賑やかな宴となりました。ホストファミリーのマンマたちからは、記念の写真と、「団員たちはとても仲が良く、助け合う姿がとても素晴らしかった。お別れするのはとても淋しいです。このような貴重な体験ができて、とても感謝しています。」との言葉をいただきました。団員たちは、立派に研修団としての役目を果たしたと言えます。感謝の気持ちを込めて団員たちは歌い、踊りました。そして夜が更けるのも忘れて繰り広げた日伊対抗(?)パフォーマンス合戦。会場には笑顔、笑顔、笑顔。そう笑顔があふれていました。



▲小さなダリオからの贈物とセツリさんの顔(チェルタルド)

別れの朝。ピサに行く時、ヴィンチ村に行く時、幾度となく集まった国旗のあるロータリーに集合しました。見送りのホストファミリーと別れを惜しむ団員たち。「帰りたくない。」と誰もが思っていたと思います。私も思っていました。それほどチェルタルドは居心地が良く、遠くの親戚など敵わないほどの親愛の情を私たちにを見せてくれました。

ミラノへ向かうバスの中、離れていくチェルタルド市に後ろ髪引かれる思いからか、いつもは賑やかな団員たちも静まり返っていました。それぞれの7日間を噛みしめていたのだと思います。

ミラノでイタリア10日目にして初めて

近代的な建物やビルを目にしました。ビル工事には、ヴィンチ村の博物館で見たダ・ヴィンチの発明品と同じ形状のクレーンが使われていました。ダ・ヴィンチの偉業はこんなところにも息づいていました。

イタリアにいる間、全員分のパスポートの写しと帰りの飛行機チケットのコピー、そして分厚い海外旅行保険ガイドをいつも大きなバッグに入れて持ち歩いていました。随分と重たい思いもしましたが、これらの出番もなく無事に帰国することができました。渡航前は不安ばかりが先行していましたが、過ぎてしまえばまるで夢のような11日間でした。

イタリアでは数々の世界遺産、そして沢山の美しいものをみせていただきました。ことチェルタルドでは、今思い返しても胸が熱くなるような感動の連続でした。これもこの交流に携わってきた方々の努力と、これまで培ってきた友情の賜物だと深く感じています。このような素晴らしい経験ができたことを日伊両国の関係者に心より感謝を申し上げ、そして、カメラを向けるといつもいつも笑顔で応えてくれた団員たちにHUGを贈ります。



チェルタルド市の 概要

チェルタルド市は、イタリア共和国トスカーナ州フィレンツェ県に属し、人口約16,000人（甘楽町は約14,100人）、面積75.24km²（甘楽町は58.57km²）の小都市です。首都ローマから北へ約210km、商業都市ミラノから



▲上の町から見たチェルタルド市街

南へ約250kmの位置で、フィレンツェ、シエナへは約30km、ピサへは約50kmの距離にあり、サンジミニャーノは隣町にあります。地形は東西に細長く広がり、外周部を農耕地が取り囲んでいます。

中心部から西側平坦地、東部から北部にかけて起伏のある丘陵地帯が続き、ブドウ、オリーブ、麦畑などが広がり、農地が点在し、遠望のきく風景の眺めは素晴らしいです。

市街は、13世紀から14世紀の古い建物が連なる丘の上のチェルタルド・アルトと呼ばれる旧城郭区域（標高約130m）と、丘の下の平坦地に区画整理された新しい市街がエルザ川流域に広がっています。

イタリアの代表的作家ジョヴァンニ・ボッカチオ（1313年～1375年代表作『デカメロン』）生誕の地であり、ボッカチオは、ダンテ、ペトラルカとともに14世紀イタリア文学の三巨星に数えられ、市民は、この地が生んだことを何よりの誇りとしています。また、市役所は、市街の中心地（標高約70m）にあり、市役所前があるボッカチオの像が建つボッカチオ広場は、市民の憩いの広場となっています。



▲プレトリオ宮殿



▲上の町の様子（ボッカチオ通り）



▲チェルタルド市の位置

甘楽町国際交流年表

1983年(昭和58年)

4月 9日	県主催の「ふるさと巡回サロン」が甘楽町で開催される イタリア女流ジャーナリストのカルラ・ヴァシオ女史とエットレ・コロー氏(イタリア文化会館)を招き町内5名県内5名の女性との懇談会が開催され、その際ヴァシオ女史よりイタリア・チェルタルド市との姉妹都市提携が提案される チェルタルド市長あてに町長よりメッセージを送る
4月～7月	県(地域振興課)、イタリア文化会館などの側面的協力を得る
7月15日	チェルタルド市長へ姉妹都市関係樹立について文書を送る
7月23日	チェルタルド市長より姉妹都市協定の締結と使節団招待の正式文書到達
7月27日	町議会へ姉妹都市協定について経緯を報告、今後の運び方を説明
8月10日	姉妹都市協定書(原案)をチェルタルド市長へ送付
8月29日	姉妹都市協定書原案についての同意文書がチェルタルド市長より到達
9月12日	9月定例議会で姉妹都市協定書議決
10月 1日 ～ 2日	地域文化交流まつりに在日イタリア人7家族31人が来町した際、秋畑地区の民家に分宿し、地元のお祭りや行事に参加し交流を深める
10月19日	第1次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (11名、26日帰国)
10月20日	チェルタルド市プレトリオ宮殿にて友好親善姉妹都市協定書に調印
11月 3日	イタリア展を開催 以後、役場ロビーにて姉妹都市交流の関係資料を展示

1984年(昭和59年)

4月14日	第1次チェルタルド市使節団甘楽町を表敬訪問 (10名、17日帰国)
8月23日	町企画課長がチェルタルド市を訪問し、ワインの輸入などについて協議

1985年(昭和60年)

3月～	チェルタルド市よりイタリアワインを直輸入し、物産センターにて販売
5月18日	国際交流基金チャリティー事業として、「イタリア音楽テノールリサイタル」開催 (小幡小体育館)
6月26日	中学生の文通について、関係者(中学校先生ほか)打合せ 以後チェルタルド市中学生との文通が始まる
7月29日	イタリア語文化講座を開催(～8月9日) (講師:一ノ瀬俊和氏)

10月20日	第2次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (12名、30日帰国)
--------	-----------------------------------

1986年(昭和61年)

4月23日	甘楽町国際交流振興協会設立総会が開催される
6月28日	イタリア語文化講座を開催(～7月8日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
7月18日	第1次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (25名、内中学生20名、27日帰国)
8月 4日	第2次チェルタルド市使節団が甘楽町を表敬訪問 (21名、4日間滞在)

1987年(昭和62年)

5月 7日	英会話教室を開催 (～3月31日) (講師:ヌルハン・ヨセフィー氏)
8月 7日	イタリア語文化講座を開催(～9月29日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
10月18日	第3次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 チェルタルド市で甘楽町展開催 (11名、28日帰国) ツバキの木100本をチェルタルド市へ贈呈
11月30日	中国内蒙古歌舞団が来町

1988年(昭和63年)

2月12日	財団法人甘楽町国際交流振興協会設立
5月12日	初級英会話教室を開催(～3月30日) (講師:ヌルハン・ヨセフィー氏)
5月13日	イタリア語文化講座を開催(～12月9日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
5月17日	楽しい英会話教室を開催(～11月15日) (講師:和田穹男)
7月25日	設立記念事業「パスポート取得事業」の実施
8月 1日	英語指導助手(ALT)としてキャサリン・オースターさんが着任
8月20日	第2次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (25名、内中学生20名、30日帰国)
11月10日	「国際交流のまち」実施市町村として、自治省の指定を受ける
11月26日 ～29日	設立記念事業 国交振「台湾ツアー」の実施

1989年(平成元年)

3月	ブドウの木合唱団(東京)がチェルタルド市でコンサート開催
5月 1日	チェルタルド市長ネヴィオ・ヴァンニ氏甘楽町を訪問 (5日間滞在)
5月11日	初級英会話教室を開催(～3月29日)

	(講師:ヌルハン・ヨセフィー氏)
5月15日	中国哈爾濱市へ第1次甘楽町視察団 出発 (3名、22日帰国)
5月19日	イタリア語文化講座を開催(～1月26日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
5月24日	楽しい英会話教室を開催(～1月10日) (講師:和田穹男氏)
8月 1日	英語指導助手(ALT)としてクリスファ ー・シロタさんが着任
10月 8日 ～10日	哈爾濱市児童書画作品展を開催
10月 8日 ～15日	町発足30周年記念事業として、チェル タルド市より絵画を借り受け「ボッカチ オ記念絵画展」を開催
10月18日 ～22日	東京都北区において「ボッカチオ記念 絵画展」を開催
10月25日	第4次チェルタルド市訪問甘楽町使節 団を派遣 (20名、11月6日帰国)

1990年(平成2年)

3月	「国際交流アラカルト」「伊語及び英語 町紹介パンフレット」を作成
4月 8日	城下町小幡さくらまつり武者行列に4 カ国31名の外国人(東京在住留学生 など)が参加
4月13日	イタリア語講座を開催 (～1月25日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
5月	町内小中学生の書画等を哈爾濱市へ 送付
5月 9日	楽しい英会話教室を開催(～10月3日) (講師:和田穹男氏)
6月 5日	哈爾濱市へ第2次甘楽町視察団出発 (8名、11日帰国)
6月21日 ～26日	使節団員として訪伊した滝上祥一郎 氏による写真展「中世の余光チェルタ ルド」が開催される
8月 6日	第3次チェルタルド市使節団甘楽町を 表敬訪問 (20名、11日帰国)
8月17日	第3次甘楽町中学生国際交流研修団 をチェルタルド市へ派遣 (25名、内中学生20名、29日帰国)
10月 4日	英会話教室を開催 (～3月14日) (講師:クリスティーナ・シロタ氏)
11月	哈爾濱市児童書画作品を展示
11月 8日	哈爾濱市医科大学講師劉蓬海氏研修 生として来日 (～1992年8月8日)
12月15日 ～1月 6日	チェルタルド市で滝上祥一郎氏写真展 「中世の余光チェルタルド」が開催され る

1991年(平成3年)

2月 1日 ～7日	チェルタルドの額縁展及びファヴィオ・ カルヴェッティ氏の個展「ラ・フォルマ イル・コロレー」を甘楽町で開催
2月 9日 ～16日	ファヴィオ・カルヴェッティ氏個展を横 浜で開催

2月19日 ～25日	チェルタルドの額縁展及びファヴィオ・ カルヴェッティ氏個展を東京都北区で 開催
4月12日	イタリア語講座を開催 (～1月25日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
4月14日	城下町小幡さくらまつり武者行列に8 カ国25名の外国人(東京在住留学生 など)が参加
5月	中国語講座を開催(～9月)
5月16日	チェルタルド市長ネヴィオ・ヴァンニ氏 甘楽町を訪問 (6日間滞在)
5月18日	第1次哈爾濱市使節団が来町 (5名、10日間滞在)
5月30日 ～6月 4日	ファヴィオ・カルヴェッティ氏個展「イン ナー・ヴィジョン」を富岡市で開催
7月19日	第5次チェルタルド市訪問甘楽町使節 団を派遣 (18名、31日帰国)
8月 1日	英語指導助手(ALT)としてマイケル・ ガラントさんが着任
8月26日	第1次哈爾濱市訪問甘楽町使節団を 派遣 (11名、9月2日帰国)
8月29日	哈爾濱市教育委員会と友好交流覚え 書(概要)
11月22日	町内小中学生の書画等をチェルタルド 市及び哈爾濱市へ送付

1992年(平成4年)

3月27日	甲府市アマチュア合唱団チェルタルド 市でコンサート開催
4月 9日	第2次哈爾濱市使節団が来町 (3名、6日間滞在)
4月12日	城下町小幡さくらまつり武者行列に8 カ国31名の外国人(東京在住留学生 など)が参加
4月17日	イタリア語講座を開催 (～1月28日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
7月26日	第1次チェルタルド市青年使節団が来 町 (14名、9日間滞在)
8月17日	第4次甘楽町中学生国際交流研修団 をチェルタルド市へ派遣 (24名、内中学生20名、29日帰国)
11月 2日	チェルタルド市長ネヴィオ・ヴァンニ 一家甘楽町を訪問 (6日間滞在)
11月26日	哈爾濱市より工業研修生13名が来町
12月12日	柳沢正人氏個展「刻(とき)」プレトリオ 宮殿で開催

1993年(平成5年)

3月	町内小学生の書画を哈爾濱市へ送付
4月	マイクロバスを哈爾濱市へ贈呈
4月11日	城下町小幡さくらまつり武者行列に6 カ国24名の外国人(研修生、町内在住 外国人など)が参加
4月14日	町内小中学生の書画等をチェルタルド 市へ送付
4月16日	イタリア語講座を開催 (～1月28日)

	(講師:一ノ瀬俊和氏)
7月19日	甘楽町芸能使節団をチェルタルド市へ派遣 夏祭りメルカンティアに出演 (12名、26日帰国)
7月21日	英語指導助手(ALT)としてエリザベス・ホルトンさんが着任
7月22日	神戸市のコーラスグループ「アンサンブル須磨」メルカンティアに出演
8月 2日	第2次チェルタルド市青年使節団が来町 (18名、9日間滞在)
10月 5日	中国語講座を開催 (~2月) (講師:佐俣福艶氏)
10月11日	第6次チェルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (19名、21日帰国)
10月16日	チェルタルド市プレトリオ宮殿にて友好親善姉妹都市協定締結10周年共同宣言書に調印 財団法人甘楽町国際交流振興協会からチェルタルド市へ茶室贈呈
10月20日	ハルビン市より王興仁氏が来町
11月24日	ハルビン市工業研修生及び王興仁氏が帰国
11月30日 ~12月6日	柳沢正人氏個展「刻(とき)」を甘楽町で開催

1994年(平成6年)

1月23日	10周年記念事業として町民文化講座(楽しい旅そして国際交流)の共催 (講師:女優 中野良子氏)
2月 3日 ~4日	10周年記念事業として町内3中学校を巡回してイタリアについての講演会 (講師:一ノ瀬俊和氏)
3月	チェルタルド市姉妹都市交流 10周年記念事業として記念誌作成『一粒の麦』
4月10日	城下町小幡さくらまつり武者行列に7カ国15名の外国人(町内在住外国人など)が参加
4月15日	イタリア語講座を開催 (~1月28日) (講師:一ノ瀬俊和氏)
5月26日	第2次ハルビン市訪問甘楽町使節団を派遣 (17名、6月2日帰国)
8月 1日	第4次チェルタルド市使節団甘楽町を表敬訪問 (16名、6日間滞在)
8月17日	第5次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (24名、内中学生20名、29日帰国)
10月	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付
11月	第5次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成
11月16日	チェルタルド市より中学生による文通の申入
12月11日	文化講演会「豊か心、豊かな家族」の共催 (講師:NHKアナウンサー広瀬久美子氏)

1995年(平成7年)

1月12日	チェルタルド市へ甘楽町中学生23名の手紙を送付
1月18日	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付
3月11日	チェルタルド市中学生より19通の手紙到達
4月14日	イタリア語講座を開催 (講師:一ノ瀬俊和氏)
4月14日 ~16日	ファヴィオ・カルヴェッティ氏絵画展のため来日、甘楽町表敬訪問
4月16日	城下町小幡さくらまつり武者行列に6カ国17名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月 2日 ~26日	松井千明氏による写真展(Buongiorno Italia 你好中国)が文化会館で開催
10月 1日	第3次ハルビン市訪問甘楽町使節団を派遣 (17名、8日帰国)
10月19日	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付
10月22日	国際交流祭参加(前橋市)
11月16日 ~1月29日	ハルビン市児童・生徒絵画作品展 (甘楽町文化会館)

1996年(平成8年)

4月14日	城下町小幡さくらまつり武者行列に5カ国12名の外国人(町内在住外国人など)が参加
4月19日	イタリア語講座を開催 (~1月) (講師:町田 亘氏)
5月 8日	第4次ハルビン市訪問甘楽町使節団を派遣 (6名、16日帰国)
6月14日	チェルタルド市よりジョヴァンニ・ボッカチオの胸像を受贈
7月15日	第1次ハルビン市中学生研修団が来町(児童・生徒10名、教師10名、22日帰国)
7月22日	英語指導助手(ALT)としてクリア・ステニングさんが着任
8月16日	第6次甘楽町中学生国際交流研修団をチェルタルド市へ派遣 (24名、28日帰国)
12月	町内小中学生の書画等をチェルタルド市及びハルビン市へ送付
12月10日	チェルタルド市長を代表とする使節団が来町 (3名、15日帰国)
12月11日	ボッカチオ胸像除幕式

1997年(平成9年)

2月	第6次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成
4月13日	城下町小幡さくらまつり武者行列に4カ国7名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月23日	イタリア語講座を開催 (~12月) (講師:町田 亘氏)
7月	英語指導助手(ALT)としてミッシェル・

9月22日	コーリーさんが着任 第7次チエルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (20名、10月1日帰国) 滞在中、ミケーレ・フラミア氏よりフレスコ画を受贈 (甘楽町文化会館)
10月27日	哈爾濱市より行政研修生として孫鳳喜氏が来町(1年間)
12月 7日	チエルタルド市名誉市民アラン氏が来町
12月	町内小中学生の書画等をチエルタルド市及び哈爾濱市へ送付

1998年(平成10年)

4月12日	城下町小幡さくらまつり武者行列に5カ国14名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月 8日	イタリア語講座を開催(～12月、15回) (講師:町田 亘氏)
8月 3日	第3次哈爾濱市使節団が来町 (2名、10日帰国)
8月14日	第7次甘楽町中学生国際交流研修団をチエルタルド市へ派遣 (20名、26日帰国)
8月17日	第1次甘楽町中学生国際交流研修団を哈爾濱市へ派遣(20名、24日帰国)
10月23日	哈爾濱市行政研修生孫鳳喜氏が帰国

1999年(平成11年)

3月	第7次甘楽町中学生国際交流研修団及び第1次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成
3月	町内小中学生の書画等をチエルタルド市及び哈爾濱市へ送付
4月 4日	城下町小幡さくらまつり武者行列に7カ国9名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月 7日	イタリア語講座を開催(～12月、15回) (講師:町田 亘氏)
5月24日	第5次哈爾濱市訪問甘楽町使節団を派遣 (18名、31日帰国)
6月 2日	中国語講座を開催 (～11月、10回) (講師:佐俣福艶氏)
7月	英語指導助手(ALT)としてピーター・ブロートンさんが着任
8月 2日	第2次哈爾濱市中学生研修団(少年宮芸術団)が来町 (21名、9日帰国)
8月 3日	第3次チエルタルド市青年使節団来町 (15名、12日帰国)

2000年(平成12年)

3月	町内小中学生の書画等をチエルタルド市及び哈爾濱市へ送付
4月 9日	城下町小幡さくらまつり武者行列に4カ国13名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月12日	イタリア語講座を開催(～12月、15回)

5月16日	中国語講座を開催 (講師:町田 亘氏) (～1月、15回)
8月14日	第8次甘楽町中学生国際交流研修団をチエルタルド市へ派遣 (講師:佐俣福艶氏)
8月18日	第2次甘楽町中学生国際交流研修団を哈爾濱市へ派遣(20名、25日帰国)

2001年(平成13年)

1月	第8次甘楽町中学生国際交流研修団及び第2次甘楽町中学生国際交流研修団報告記の作成
3月	町内小中学生の書画等をチエルタルド市及び哈爾濱市へ送付
4月 8日	城下町小幡さくらまつり武者行列に3カ国8名の外国人(町内在住外国人など)が参加
4月20日	第4次哈爾濱市使節団(教育委員会)が来町 (4名、21日帰国)
5月11日	イタリア語講座を開催(～12月、15回) (講師:町田 亘氏)
6月 5日	中国語講座を開催 (～12月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
8月 1日	「東洋と西洋 終わり無き美の神秘」 ～26日 甘楽町絵画展の開催(甘楽町文化会館)
8月 6日	英語指導助手(ALT)としてケンドラ・アン・リッチーさんが着任
8月 6日	第3次哈爾濱市中学生研修団来町 (20名、内中学生14名、13日帰国)
8月25日	テアトロ・キズメット「美女と野獣」甘楽町公演を開催
12月 1日	チエルタルド市茶室「甘楽庵」周辺整備資料展の開催(ギャラリー大手門) ～25日

2002年(平成14年)

2月 4日	第5次哈爾濱市使節団(教育委員会)が来町 (4名、5日帰国)
3月	町内小中学生の書画等をチエルタルド市及び哈爾濱市へ送付
4月14日	城下町小幡さくらまつり武者行列に5カ国9名の外国人(町内在住外国人など)が参加
5月 7日	中国語講座を開催 (～12月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
5月10日	イタリア語講座を開催(～12月、15回) (講師:町田 亘氏)
8月 5日	英語指導助手(ALT)としてアレスター・ジェームス・プリンスさんが着任
8月17日	第9次甘楽町中学生国際交流研修団をチエルタルド市へ派遣 (20名、29日帰国)
8月19日	第3次甘楽町中学生国際交流研修団を哈爾濱市へ派遣(20名、26日帰国)
9月25日	第8次チエルタルド市訪問甘楽町使節団を派遣 (24名、10月2日帰国)
11月27日	第6次哈爾濱市使節団(放送大学代表

12月19日	団)が来町 第7次哈爾濱市使節団(教育代表団) が来町	(7名、28日帰国) (4名、20日帰国)
--------	-----------------------------------	--------------------------

2003年(平成15年)

1月	第9次甘楽町中学生国際交流研修団 及び第3次甘楽町中学生国際交流研 修団報告記の作成	
2月	町内小中学生の書画等をチェルタルド 市及び哈爾濱市へ送付	
4月 6日	城下町小幡さくらまつり武者行列に2 カ国5名の外国人(町内在住外国人 など)が参加	
5月13日	中国語講座を開催(～12月、15回) (講師:佐俣福艶氏)	
5月15日	アダルトのための英会話教室を開催 (～7月、10回) (講師:アレスター・ジェームス・プリンス氏)	
5月16日	イタリア語講座を開催(～11月、15回) (講師:町田 亘氏)	

2004年(平成16年)

2月 6日	第4次哈爾濱市中学生研修団が来町 (20名、13日帰国)	
2月24日	チェルタルド市長を代表とする使節団 が来町(4名、29日帰国)	
2月27日	イタリア街道記念碑除幕、記念植樹、 20周年記念共同宣言書調印式	
2月27日 ～3月21日	柳沢正人、ファヴィオ・カルヴェッティ 2人展「星を夢み、時空を超えて」開催	
2月27日 ～3月 7日	滝上祥一郎氏写真展「中世の余光チエ ルタルド」開催	
3月 9日 ～21日	松井千明氏写真展「ブオンジョルノ イ タリア」開催	
3月	チェルタルド市姉妹都市交流 20周年 記念事業として記念誌作成『一粒の麦Ⅱ』	
3月19日	町内小中学生の書画等をチェルタルド 市及び哈爾濱市へ送付	
5月11日	中国語講座を開催(～11月、15回) (講師:佐俣福艶氏)	
5月21日	イタリア語講座を開催(～12月、15回) (講師:町田 亘氏)	
7月26日	英語指導助手(ALT)としてヨシユキ・ ゴヤさん、ローラ・ネリー・パスケスさん が着任	
7月31日	アフリカ・ウガンダ少年野球チームが来 町、甘楽二中野球部と親善試合等で交 流(15名、8月4日帰国)	
8月14日	第10次甘楽町中学生国際交流研修団 をチェルタルド市へ派遣 (20名、25日帰国)	
8月16日	第4次甘楽町中学生国際交流研修団 を哈爾濱市へ派遣(18名、23日帰国)	
9月 4日	初級英会話スクールを開催(～2月、22回) (講師:アンドリュウ・ウェッセル氏)	

2005年(平成17年)

1月	第10次甘楽町中学生国際交流研修団 及び第4次甘楽町中学生国際交流研 修団報告記の作成	
2月	町内小中学生の書画等をチェルタルド 市及び哈爾濱市へ送付	
5月10日	中国語講座を開催(～11月、15回) (講師:佐俣福艶氏)	
7月25日	英語指導助手(ALT)としてイボンヌ・ロ さんが着任	
8月 1日	第5次哈爾濱市中学生研修団が来町 (19名、8日帰国)	
8月17日	第4次チェルタルド市青年使節団が来 町(17名、24日帰国)	
11月 4日	第9次チェルタルド市訪問甘楽町使節 団を派遣(20名、12日帰国)	

2006年(平成18年)

2月 2日 ～19日	チェルタルド市及び哈爾濱市絵画等作 品展を開催(甘楽町文化会館)	
2月	町内小中学生の書画等をチェルタルド 市及び哈爾濱市へ送付	
5月 9日	中国語講座を開催(～11月、15回) (講師:佐俣福艶氏)	
7月 8日	文化交流使節団をチェルタルド市へ派 遣(5名、15日帰国)	
8月16日	第11次甘楽町中学生国際交流研修団 をチェルタルド市へ派遣 (20名、28日帰国)	
8月18日	第5次甘楽町中学生国際交流研修団 を哈爾濱市へ派遣(15名、25日帰国)	
12月	第11次甘楽町中学生国際交流研修団 及び第5次甘楽町中学生国際交流研 修団報告記の作成	

2007年(平成19年)

2月 2日	チェルタルド市長を代表とする使節団 が来町(3名、7日帰国)	
4月13日	ニュージーランド オタキカレッジ生徒が 来町(15名、20日帰国)	
5月15日	中国語講座を開催(～11月、15回) (講師:佐俣福艶氏)	
5月18日	イタリア語講座を開催(～12月、15回) (講師:横山修一郎氏)	
7月30日	英語指導助手(ALT)としてケネス・ア セリーさんが着任	
8月 3日	第6次哈爾濱市中学生研修団が来町 (20名、10日帰国)	
8月 6日	英語指導助手(ALT)としてクリスタル・ ハミルトンさんが着任	
8月17日	第6次甘楽町中学生国際交流研修団 を哈爾濱市へ派遣(15名、24日帰国)	
8月17日	町内小中学生の書画等をチェルタルド 市及び哈爾濱市へ送付	
10月 5日	チェルタルド市文化交流使節団来町 (3名、13日帰国)	

10月 2日 ～ 7日	文化交流展覧会を開催 (甘楽町文化会館)
10月11日 ～17日	文化交流展覧会を開催 (東京都北区「北とぴあ」)
10月24日	第8次哈爾濱市使節団が来町(教育委員会) (6名、26日東京へ)
12月	第6次甘楽町中学生国際交流研修団 報告記の作成

2008年(平成20年)

2月 8日	哈爾濱市「氷まつりツアー」の実施 (26名、11日帰国)
5月20日	中国語講座を開催(～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
5月23日	イタリア語講座を開催(～11月、15回) (講師:横山修一郎氏)
8月 1日	第5次チエルタルド市青年使節団が来町 (16名、7日帰国)
8月15日	第12次甘楽町中学生国際交流研修団 をチエルタルド市へ派遣 (20名、25日帰国)
8月15日	町内小中学生の書画等をチエルタルド 市へ送付(70作品)
11月22日	友好親善姉妹都市協定締結25周年、 第10次チエルタルド市訪問甘楽町使節 団を派遣、チエルタルド市にて記念式典 を開催(10名、30日帰国)
12月	第12次甘楽町中学生国際交流研修団 報告記の作成

2009年(平成21年)

4月10日 ～17日	ニュージーランド オタキカレッジ生徒が 来町(18名)
5月17日	チエルタルド市訪問ツアーの実施 (16名、24日帰国)
5月19日	中国語講座を開催(～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
7月27日	英語指導助手(ALT)としてトーマス・ シューマツハーさん、ジャクリーン・ケ ントさんが着任
8月 3日	第7次哈爾濱市中学生研修団が来町 (20名、10日帰国)
8月17日	第7次甘楽町中学生国際交流研修団 を哈爾濱市へ派遣(19名、24日帰国)
8月17日	町内小中学生の書画等を哈爾濱市へ 送付(70作品)
9月19日	甄培德氏が来町
10月31日	チエルタルド市使節団が来町 町発足 50周年記念式典に参列 (6名、11月4日帰国)
11月 2日	第9次哈爾濱市使節団が来町 町発足 50周年記念式典に参列(教育局6名、 市政府1名、大使館員1名)(教育局、 大使館員は4日東京へ、市政府は6日 帰国)
12月	第7次甘楽町中学生国際交流研修団

報告記の作成

2010年(平成22年)

2月20日	ニュージーランド オタキ市訪問使節団 を派遣(8名、25日帰国)
5月13日	北京・哈爾濱市訪問ツアーの実施 (32名、17日帰国)
5月25日	中国語講座を開催(～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
7月26日	英語指導助手(ALT)としてレイチェル・ タケットさんが着任
8月 1日	第6次チエルタルド市青年使節団が来町 (14名、7日帰国)
8月16日	第13次甘楽町中学生国際交流研修団 をチエルタルド市へ派遣 (20名、26日帰国)
8月16日	町内小中学生の書画等をチエルタルド 市へ送付(70作品)
9月30日	ニュージーランド ハミルトン市セントジョ ンズカレッジ生徒が来町 (11名、10月3日帰国)
11月 5日	第11次チエルタルド市訪問甘楽町使節団 を派遣、チエルタルド市・哈爾濱市と会談 (10名、14日帰国)
12月	第13次甘楽町中学生国際交流研修団 報告記の作成

2011年(平成23年)

5月24日	中国語講座を開催(～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
7月 7日	チエルタルド市からの東日本大震災義 援金を岩手県大船渡市綾里小学校へ 届ける
8月 1日	英語指導助手(ALT)としてマーカス・コ ールさんが着任
12月 3日 ～ 6日	ニュージーランド オタキカレッジ生徒が 来町(11名)

2012年(平成24年)

1月22日	第10次チエルタルド市使節団が来町 (10名、25日帰国)
5月16日	中国語講座を開催(～10月、15回) (講師:佐俣福艶氏)
7月29日	第7次チエルタルド市青年使節団が来町 (14名、8月3日帰国)
8月 6日	英語指導助手(ALT)としてキンパリー・ サンさんが着任
8月15日	第14次甘楽町中学生国際交流研修団 をチエルタルド市へ派遣 (20名、25日帰国)
8月15日	町内小中学生の書画等をチエルタルド 市へ送付
11月20日	財団法人甘楽町国際交流振興協会が 第17回群馬県国際交流賞を受賞

平成24年度 甘楽町中学生国際交流研修団報告記

2012年12月発行

発行・編集

財団法人甘楽町国際交流振興協会
群馬県甘楽郡甘楽町大字小幡161-1
甘楽町役場内 〒370-2292
TEL 0274-74-3131
FAX 0274-74-5813
E-mail kikaku@town.kanra.gunma.jp
URL <http://www.kanra.gunma.jp>